

IBM Unica Marketing Operations and Campaign

バージョン 8 リリース 6

2012 年 5 月 25 日

統合ガイド



注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、59 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Marketing Operations および Campaign バージョン 8、リリース 6、モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Marketing Operations and Campaign
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Integration Guide

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 2002, 2012.

目次

第 1 章 統合の概要 1

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign を統合するメリット	1
IBM Unica Marketing Operations との統合について	1
IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign との間でのデータ転送の概要	2
統合された IBM Unica Campaign とスタンドアロン IBM Unica Campaign の相違点	3
統合された IBM Unica Marketing Operations とスタンドアロン IBM Unica Marketing Operations の相違点	4
IBM Unica Marketing Operations および IBM Unica Campaign の統合のライセンスおよび権限の問題	5
統合の無効化または再有効化	6

第 2 章 Marketing Operations と Campaign の統合 7

統合された配置の構成設定	7
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート、フォーム、および属性の設計	9
キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計	9
ターゲット・セル・スプレッドシートおよびその他のフォームの設計	9
オファー・テンプレートの設計	12
属性の設計	12
共有属性を作成するには	16
TCS を作成するには	17
IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする	17
IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップするには	18
メトリック・データ・マッピング・ファイルについて	18
データ・マッピングを追加するには	19
データ・マッピングを編集するには	20
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	20
キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの作成	21
プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ	21
「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パッケージのインストール	23
統合レポート・パッケージのインストール前提条件	23
ステップ 1: IBM Cognos システムで Unica インストーラーを実行する	23
ステップ 2: レポート・フォルダーを Cognos Connection にインポートする	24

ステップ 3: レポート内の内部リンクを有効にする	25
ステップ 4: データ・ソース名を検証して公開する	25
ステップ 5: IBM Cognos アプリケーションのファイアウォールを構成する	26
ステップ 6: IBM Unica アプリケーション・データベース用に IBM Cognos データ・ソースを作成する	26

第 3 章 統合環境でのキャンペーンの作成 29

キャンペーン・プロジェクトについて	29
プロジェクト・コードおよびキャンペーン・コードについて	30
プロジェクトを作成するには	30
プロジェクトを開始するには	31
「キャンペーン・サマリー」セクション	32
要求を作成するには	32
プロジェクトおよび要求のステータスを変更するには	33
特殊文字について	34
リンクされたキャンペーンの作成	34
連携キャンペーンを作成するには	35
連携キャンペーンの更新	35
連携キャンペーンを更新するには	35
TCS への入力	35
グリッド・データの編集について	36
TCS の公開	39
TCS を公開するには	39
IBM Unica Campaign のキャンペーンにアクセスするには	39
TCS でセル・ステータスを更新	39
TCS でセル・ステータス・データを更新するには	40
フローチャートについて	40
フローチャートの作成	40
フローチャートのテスト	41
TCS の承認について	42
個別の TCS 行を承認するには	43
TCS 内のすべての行を承認するには	43
すべての TCS 行に対する承認を拒否するには	43
フローチャートの実行	43
フローチャートを実行するには	44
レスポンス履歴およびコンタクト履歴のインポート	44
キャンペーンからメトリックをインポートするには	44
統合レポート	45

第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレートの管理 47

オファー・ワークフロー機能	47
Marketing Operations でのオファー統合の有効化	48

Campaign からオファーをインポート	49
統合システムでのオファーの作成	51
オファー統合の有効化時にオファー・テンプレート およびオファー属性を管理	52
オファー統合の有効化時にオファーを管理	53
オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・ リストをセルに割り当てる	55

IBM Unica 技術サポートへの連絡	57
---------------------------------------	-----------

特記事項	59
-----------------------	-----------

商標	61
--------------	----

第 1 章 統合の概要

IBM® Unica Marketing Operations および Campaign を統合して、これら両製品の機能がより密結合されるようにすることができます。

統合後は、Campaign 内で使用するためにキャンペーン、プロジェクト、オファー、およびターゲット・セル・スプレッドシートを Marketing Operations で管理することができます。

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign を統合するメリット

Marketing Operations と Campaign を統合すると、Marketing Operations のすべてのプロジェクト管理機能を利用してキャンペーンを作成し、そのキャンペーンを Campaign で実行することができます。統合により、両方の製品でセル情報を入力する必要がなくなります。

さらに、統合することで、Marketing Operations の堅固なグリッド機能を使用して、ターゲット・セル・スプレッドシートを作成および管理できるようになります。

IBM Unica Marketing Operations との統合について

Campaign は、Marketing Operations と統合して、そのマーケティング・リソース管理機能を使用してキャンペーンを作成、計画、および承認することができます。

Campaign を Marketing Operations に統合すると、スタンドアロン Campaign 環境で以前に実行されたタスクの多くが、Marketing Operations で実行されます。これらのタスクには、以下のものが含まれます。

- キャンペーンの作業
 - キャンペーンの作成
 - キャンペーンの表示、移動、および削除
 - キャンペーン・サマリーの詳細の作業
- ターゲット・セル・スプレッドシートの作業
- オファーのセルへの割り当て
- コントロール・セルの指定
- カスタム・キャンペーン属性の作成およびデータの設定
- カスタム・セル属性の作成およびデータの設定

以下のタスクは、Campaign のスタンドアロン環境および統合環境の両方で実行されます。

- フローチャートの作成
- フローチャートの実行
- キャンペーン/オファー/セルの詳細分析

- キャンペーン実績の (インストールされているレポート・パックに応じた) レポート作成

オファー統合も有効になっている場合、以下のタスクを Marketing Operations で実行します。

- オファーの設計
 - オファー属性の定義
 - オファー・テンプレートの作成
- オファーの作成、承認、公開、編集、および回収
- オファー・リストおよびオファー・フォルダーを使用したオファーの編成

オファー統合の有効化について詳しくは、『統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレートの管理』の章を参照してください。オファーの管理および使用について詳しくは、管理者およびユーザーを対象とした Campaign ガイドを参照してください。

IBM Unica Marketing Operationsと IBM Unica Campaign との間でのデータ転送の概要

データ転送には、キャンペーン・データ、セル・データ (TCS 内)、およびオファー・データの 3 つの主要エリアがあります。製品間でのデータの転送は、基本的に Marketing Operations から Campaign への片方向です。

Marketing Operations-Campaign 統合が有効になると、Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトの名前およびコードは、Campaign 内のキャンペーンの名前およびコードと同じになります。Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトは、Campaign 内の対応するキャンペーンに自動的にリンクされます。ユーザーは、1 つのボタンをクリックするだけで、プロジェクトとキャンペーンの間を双方向に移動できます。

統合により、データ・エントリーを複製する必要がなくなります。Marketing Operations には、すべてのデータを表示する 1 つのビューと、データを入力および編集する 1 つのロケーションがあります。共有データは、Marketing Operations でのみ表示および編集できます。Marketing Operations ユーザーは、キャンペーンの実行に必要なデータが公開される (Campaign にプッシュされる) タイミングを制御します。

継続的なデータの転送は、Marketing Operations から公開を通じて開始される必要があります。Campaign は、データの要求 (例えば、セル状況情報やキャンペーン・メトリックの取得など) に応答したり、Marketing Operations からデータ (例えば、キャンペーン・データや TCS データ) を受信したりすることができますが、データが要求されていない場合に Marketing Operations にデータを送信することはできません。

データ転送の 3 つの主要エリアの説明は、次のとおりです。

キャンペーン・データの転送

Marketing Operations では、任意の数のカスタム・キャンペーン属性を定義し、それらを標準キャンペーン属性と共にキャンペーン・プロジェクト・テンプレートに配置することができます。Marketing Operations でこれらの属性にデータを入力し、手動でそのデータを Campaign に公開できます。そこでは、これらのキャンペーン属性を、フローチャート内の定義項目として、およびレポートおよび分析用として使用できます。Marketing Operations ユーザーは、キャンペーンが Campaign で作成されるタイミングと、キャンペーン属性データが Campaign に公開されるタイミングを制御します。Campaign は、常に公開されたキャンペーン属性の最新セットを使用します。

セル・データの転送

継続中のデータ転送の 2 つ目の主要なエリアは、ターゲット・セル・スプレッドシートです。TCS は、ターゲット・セルとコントロール・セルのセル・レベル情報(セル名、セル・コード、指定済みオファー、コントロール・セル・リンケージ、およびカスタム・セル属性など)を管理します。セル定義の Marketing Operations から Campaign への転送と、セル・ステータスの Marketing Operations への返送は、反復可能です。企業では多くの場合、セル定義およびセル数がファイナライズされ、TCS の行が個別に承認され、キャンペーンの実行準備が整うまでに、いくつかのサイクルを必要とします。

オファー・データの転送

オファー統合が有効なシステムの、継続中のデータ転送の 3 つ目の主要なエリアは、オファー・データです。オファーは Marketing Operations で作成されます。新規オファーが Marketing Operations で作成されると、そのオファーの状態は「ドラフト (Draft)」になっています。オファーの状態を「公開済み (Published)」に変更すると、オファー・インスタンスが Campaign にプッシュされます。最初の公開で、Campaign にオファーが作成されます。以降の公開では、Campaign のオファー・インスタンスが更新されます。

同様に、オファー・テンプレートの状態を「公開済み (Published)」に変更すると、そのオファー・テンプレートと Marketing Operations で定義した任意のオファー属性の両方が Campaign にプッシュされます。

最初にオファー統合を有効にしたときに、既存のオファー・メタデータおよびデータを Campaign から Marketing Operations にインポートできます。49 ページの『Campaign からオファーをインポート』を参照してください。

統合された IBM Unica Campaign とスタンドアロン IBM Unica Campaign の相違点

Campaign が Marketing Operations と統合された場合、Campaign のインストール済み環境は以下の点でスタンドアロン・インストールとは異なります。

- ・ キャンペーン (ただし、統合を有効にする前に作成したキャンペーンを除く) を作成またはアクセスする唯一の方法は、対応する Marketing Operations プロジェクトを使用することです。Campaign の「キャンペーン一覧」ページには、統合が有効になる前に作成されたキャンペーンのみが表示されます。

- ターゲット・セル・スプレッドシートおよびカスタム・セル属性は、Marketing Operations でのみ作成、表示、および管理されます。カスタム・セル属性はキャンペーン・プロジェクト・テンプレートで定義されます。そのため、各タイプのキャンペーンが異なるカスタム・セル属性を持つことも、カスタム属性を異なる順序で表示することも可能です。(スタンドアロンの Campaign では、すべてのキャンペーンが同じセル属性を同じ順序で保持します。)
- TCS はトップダウンまたはボトムアップのいずれにすることもできます。ボトムアップ・セルは、MO_UC_BottomupTargetCells が「はい」に設定されている (「Unica」>「キャンペーン」>「パーティション」>「パーティション[n]」>「server (サーバー)」>「internal (内部)」) 場合に、Campaign Marketing Operations 統合で使用可能になります。
- フローチャートは、TCS のトップダウン・セルにリンクされていない場合であっても、運用モードで実行できます。
- キャンペーンの「サマリー」タブは、Campaign には存在しません。キャンペーン・サマリー情報は、Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションに表示されます。オファーおよびセグメントの情報は、Campaign の新しい「セグメント/オファー」タブに表示されます。キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを Marketing Operations で管理するので、各キャンペーン・テンプレートは、プロジェクト内の 1 つ以上のタブで編成された、異なるキャンペーン・カスタム属性のセットを持つことができます。また、より堅固な Marketing Operations の属性機能を、レイアウト、必須属性対オプション属性、条件付きドロップダウン・リスト、データベース・テーブルからの動的データ値などに利用することができます。(スタンドアロンの Campaign では、すべてのキャンペーンが同じカスタム・キャンペーン属性を同じ順序で保持します。)
- 「IBM Unica Marketing Operations - Offer の統合」を「はい」に設定する (Unica > Campaign > パーティション > パーティション[n] > サーバー > 内部) ことによりオファー統合を有効にした場合、Campaign でオファー・テンプレートやオファーを作成したり操作したりすることはできません。代わりに、Marketing Operations を使用してオファー・テンプレートを作成し、オファーを作成、変更、承認、公開、または撤回します。それから、オファー・テンプレートや承認されたオファーを Campaign に公開して使用可能にすることができます。

注: オファー統合は、キャンペーン統合とは別個のオプションです。キャンペーン統合が有効になっているときに、オファー統合も有効にすることが可能です。詳しくは、48 ページの『Marketing Operations でのオファー統合の有効化』を参照してください。

統合された IBM Unica Marketing Operations とスタンドアロン IBM Unica Marketing Operations の相違点

キャンペーン統合が有効になっている場合、キャンペーン・プロジェクト管理は Marketing Operations で実行され、Campaign と密結合されます。オファー統合も有効になっている場合、オファーのライフサイクル管理が Marketing Operations で実行され、オファーは Campaign に公開されて使用可能になります。

キャンペーン・プロジェクト管理

キャンペーン統合が有効になっている場合、ユーザーはキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを使用してプロジェクトを作成できます。

スタンドアロン・インストールでは、ユーザーはキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを使用して新規プロジェクトを作成することはできません。スタンドアロン・インストールでは、マーケティング・キャンペーンを管理するためのプロジェクト・テンプレートを作成できますが、対応するキャンペーンへのリンク、ターゲット・セル・スプレッドシート、オファーとの統合、キャンペーンのコンタクトとレスポンスに渡すメトリックはいずれもありません。

統合されたインストールでは、キャンペーン・プロジェクトには、Campaign とのデータ転送を開始したり、Campaign の対応するキャンペーンとの相互間で簡単にナビゲート可能にしたりするためのアイコンやリンクがあります。

オファーのライフサイクル管理

キャンペーン統合が有効になっている場合、オファー統合も有効にすることができます。オファー統合が有効になると（「設定」>「構成」>「Unica」>「Platform (プラットフォーム)」）、オファーのライフサイクル管理は Marketing Operations でのみ実行されます。Marketing Operations を使用してオファー・テンプレートを作成し、オファーを作成、変更、承認、公開、または回収することができます。承認されたオファーを、Campaign に公開して使用可能にすることができます。

IBM Unica Marketing Operations および IBM Unica Campaign の統合のライセンスおよび権限の問題

Marketing Operations と Campaign が統合されると、キャンペーンの設計、作成、および実行に携わるすべてのスタッフに、Marketing Operations のライセンスが必要になります。Campaign のみで作業するチーム・メンバー（フローチャート開発者など）であっても、ワークフロー通知を受け取ったり、キャンペーンにアクセスしたりできるようにするために Marketing Operations のライセンスが必要になります。（統合環境では、Marketing Operations を使用することが、キャンペーンにアクセスする唯一の方法です。）

Marketing Operations キャンペーン・プロジェクトの一部のアクションでは、Campaign 権限が必要です。これらの権限を付与する役割を Campaign で作成し、その役割を Marketing Operations で作業するユーザーに割り当てることができます。次の表は、アクションおよびそれに必要な権限をリストしたものです。

アクション	必要な Campaign 権限
連携キャンペーンの作成	キャンペーンの作成
連携キャンペーンの更新	キャンペーンの編集
TCS の公開	キャンペーン・ターゲット・セルの管理
セルの実行ステータスの取得	キャンペーン・ターゲット・セルの管理
TCS でのオファーの検索および割り当て	オファー・サマリーの表示

アクション	必要な Campaign 権限
メトリックのインポート	キャンペーンの分析

統合の無効化または再有効化

統合が有効にされた後で無効にすることは可能ですが、可能な限りこのアクションは回避してください。

Marketing Operations-Campaign 統合を無効にする

Marketing Operations と Campaign の統合を無効にすると、Campaign はそのスタンダードアロンの動作と外観に戻されます。ただし、以下のいくつかの重要な点について留意する必要があります。

- 統合を無効にした後で、統合されたキャンペーンに関連付けられたフローチャートにアクセスするには、統合をオフにする前に Marketing Operations 内のすべてのキャンペーンを公開する必要があります。そうすると、キャンペーンは Campaign 内の最上位フォルダー内で使用可能になります。
- 統合を無効にすると、キャンペーン・プロジェクトとキャンペーンの間にナビゲーション・リンクがなくなります。ユーザーは各自のキャンペーン・プロジェクトにアクセスできますが、キャンペーンを作成したり更新したりするためのアイコンは無効になり、TCS データを公開するためのボタンやセルのステータスを取得するためのボタンは使用できません。キャンペーン・プロジェクト・テンプレートは、プロジェクトを作成する際にユーザーに対して表示されるテンプレートのリストには含まれません。
- 統合を再度有効化する場合、IBM Unica 技術サポートに連絡し、その影響について話し合ってください。統合が無効にされている間にキャンペーンに加えられた変更はすべて、統合を再度有効にした後に初めてキャンペーンを更新するとき、Marketing Operations 内から TCS を公開するときに上書きされます。

オファー統合の無効化

オファー統合を無効にするとデータが不整合になる可能性があるため、このアクションは避けてください。例えば、オファーが Marketing Operations で作成されて、Campaign に公開されたとします。オファー統合をオフにした後に、そのオファーが Campaign で変更されます。オファー統合が再度オンにされても、Campaign で行われた変更は Marketing Operations と同期されません。Marketing Operations は、オファー・データが Campaign から再インポートされた後でも更新されたオファー情報を持ちません。製品間でのデータの転送は、基本的に Marketing Operations から Campaign への片方向です。

関連概念:

7 ページの『統合された配置の構成設定』

第 2 章 Marketing Operations と Campaign の統合

IBM Unica Marketing Operations と Campaign の統合のワークフローは、以下の手順で構成されます。

ユーザーがキャンペーン・プロジェクトやキャンペーン・プロジェクト要求を作成できるようにするには、事前にこれらの手順を実行する必要があります。

1. Marketing Operations と Campaign の両方をインストールします。詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations インストール・ガイド*」と「*IBM Unica Campaign インストール・ガイド*」を参照してください。
2. 統合されたデプロイメントをサポートするように、構成設定を調整します。『統合された配置の構成設定』を参照してください。
3. 必要な属性、フォーム、およびキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを設計します。

オファー統合がシステムで有効になった場合、オファー属性を使用してオファー・テンプレートを設計します。 47 ページの『第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレートの管理』を参照してください。

4. 共有属性を作成します。
5. フォーム (ターゲット・セル・スプレッドシートを収めたフォームも含む) およびローカル属性を作成します。
6. Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックに関連付けるメトリック・マップ・ファイルを作成します。
7. キャンペーン・プロジェクトとオファー・テンプレートを作成します。

統合された配置の構成設定

Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations を使用してキャンペーンを計画、作成、および承認します。

オファー統合が有効なシステムでは、オファーのライフサイクル管理用の機能が Marketing Operations に追加されます。 48 ページの『Marketing Operations でのオファー統合の有効化』を参照してください。

Marketing Operations と Campaign の統合

Marketing Operations と Campaign を統合するには、以下のプロパティを設定します。

1. 「設定」>「構成」ページの「Unica」の下で、「Platform」をクリックします。
2. 「設定の編集」をクリックして、「IBM Unica Marketing Operations - Campaign 統合」を True に設定します。この設定により統合が有効になるので、Marketing Operations を使用してキャンペーンを作成、計画、および承認することができます。

3. Campaign インストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を有効にしたいパーティションごとに以下のプロパティを設定します。

「Unica」>「Campaign」>「パーティション」>「パーティション[n]」>「server (サーバー)」と展開して、「internal (内部)」をクリックします。

4. 「設定の編集」をクリックして、「MO_UC_integration」を「はい」に設定します。この設定により、このパーティションで Marketing Operations-Campaign 統合が有効になります。

注: 以下のいずれかのオプションを「はい」に設定するには、最初に

「MO_UC_integration」を「はい」に設定しておく必要があります。以下のオプションは、「MO_UC_integration」が有効になっているときにのみ適用されます。

5. オプションで、「MO_UC_BottomUpTargetCells」を「はい」に設定します。

「MO_UC_integration」が有効になっているとき、Marketing Operations から作成されるセルは常にトップダウンです。このパーティションでターゲット・セル・スプレッドシートのボトムアップ・セルを使用可能にするには、このプロパティを「はい」に設定します。「はい」に設定すると、トップダウン・ターゲット・セルとボトムアップ・ターゲット・セルの両方が表示され、Marketing Operations ターゲット・セル・スプレッドシートで「ボトムアップ・セルを取得」ボタンが使用可能になります。このボタンにより、Campaign で作成したボトムアップ・セルを Marketing Operations で取得することができます。ボトムアップ・セルは Marketing Operations では読み取り専用であり、Marketing Operations から Campaign に逆に公開することはできません。

6. オプションで、「Legacy_campaigns」を「はい」に設定します。この設定により、統合を有効化する前に作成されたキャンペーン (Affinium Campaign 7.x で作成され、Affinium Plan 7.x プロジェクトにリンクされたキャンペーンなど) にアクセスできるようになります。
7. 必要に応じて、その他のパーティションでステップ 4 から 6 を繰り返します。
8. 「Unica」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」と展開して、「campaignIntegration」をクリックします。
9. **defaultCampaignPartition** を設定します。Marketing Operations と Campaign が統合されたときに、このパラメーターが、プロジェクト・テンプレートによって **campaign-partition-id** が定義されていない場合に使用するデフォルトの Campaign パーティションを指定します。デフォルトは **partition1** です。
10. Web サービスの統合 API 呼び出しに **webServiceTimeoutInMilliseconds** を設定します。このパラメーターは、Web サービス API 呼び出しのタイムアウト値として使用されます。

オプションで、48 ページの『Marketing Operations でのオファーク統合の有効化』のステップに進んでください。

関連概念:

6 ページの『統合の無効化または再有効化』

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート、フォーム、および属性の設計

Marketing Operations でオブジェクトの作成を開始する前に、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートと、そこに必要なフォームおよび属性を計画および設計します。

設計プロセスの結果、作成する属性とフォームのリストと、それらに関する以下のような詳細が生成されます。

- 所定の属性が複数フォーム（共用）または単一フォーム（ローカル）のいずれでの使用に適しているか
- ユーザーが、テーブルによって提供されるデータから選択するか、定義した項目のリストから選択するか、またはテキストを直接属性に入力するか
- ユーザー・インターフェース項目でどのような制約が必要か、そして結果的に、オファー属性を所定のフォームに追加したときにパラメーター化（編集可能に）する必要があるか、静的または表示されていない静的に設定する必要があるか。

キャンペーン属性とセル属性は、共有属性でなければなりません。フォーム属性とグリッド属性は、共有であってもローカルであっても構いません。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計

作成できるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートの数に制限はありません。例えば、実行するキャンペーンのタイプごとに別個のキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成できます。

一般に、必要なフォームの固有の組み合わせごとに、別個のテンプレートを作成する必要があります。例えば、キャンペーンのターゲット・セルを定義するためにさまざまな情報を収集する必要がある場合、バージョンの異なるターゲット・セル・スプレッドシートを作成して、それらを別個のテンプレートに関連付ける必要があります。同様に、一部のカスタム・キャンペーン属性が特定のタイプのキャンペーンにのみ関連している場合、異なるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成してさまざまなカスタム・キャンペーン属性を使用できるようにし、それらのタブ上での表示順序や編成を制御できます。

ターゲット・セル・スプレッドシートおよびその他のフォームの設計

デフォルトでは、プロジェクトには「サマリー」、「スタッフ」、「ワークフロー」、「追跡」、「添付ファイル」、および「分析」というタブがあります。財務管理モジュールがインストールされている場合、プロジェクトには「予算」タブもあります。

キャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブには、基本キャンペーン情報の一連の項目があります。これらの基本キャンペーン属性は、削除することも再配列することもできません。

プロジェクトに関する追加の情報を入力できるようにするには、フォームを作成して、そのフォームをプロジェクト・テンプレートに追加する必要があります。プロジェクトの「サマリー」タブや追加のタブに表示される各フォームは、そのテンプレートを使用して作成されます。

すべてのキャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS フォームが必要です。その他のフォームはオプションです。

「キャンペーン・サマリー」セクション

すべてのキャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブには、「キャンペーン・サマリー」セクションがあります。このセクションには、以下のデフォルトのキャンペーン属性が含まれています。

属性	項目の説明
キャンペーンの説明	テキスト項目
キャンペーン開始日	日付項目
キャンペーン終了日	日付項目
キャンペーン目標	テキスト項目
キャンペーン・イニシアチブ	テキスト項目
キャンペーンのセキュリティー・ポリシー	Campaign のすべてのセキュリティー・ポリシーが定義されたドロップダウン・リスト。

デフォルト・キャンペーン属性は、「管理設定」の「共有属性」ページ上のキャンペーン属性のリストには表示されず、編集できません。

ターゲット・セル・スプレッドシートについて

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) は、キャンペーンのターゲットおよびコントロール・セルを定義するためにユーザーが入力する必要がある情報のタイプを指定する、編集可能なグリッドです。ターゲット・セル・スプレッドシートは、IBM Unica Marketing Operations-Campaign 統合が有効な場合に使用します。TCS の列は、それぞれ情報の特定のアイテムを定義します。各列は属性に対応しています。

TCS には、Campaign に自動的に渡されるデフォルト属性が入っています。これらのデフォルト属性に加えて、カスタム属性をいくつでも作成し、追加することができます。

セル属性とグリッド属性

TCS には、IBM Unica Campaign に渡される属性 (セル属性) と、IBM Unica Marketing Operations だけに表示される属性 (グリッド属性) を含めることができます。

セル属性は、Campaign に渡す必要がある情報に使用します。例えば、出力リスト、コンタクト履歴、またはレポートに含める属性の値は、セル属性として作成しなければなりません。

グリッド属性は、Campaign では必要のない、説明、計算、およびデータに使用しません。

ターゲット・セル・スプレッドシートとフォーム

TCS をフォームで作成します。(フォームには、TCS に加えて、他の属性を含めることができます。) TCS グリッド・コンポーネントをフォームに配置すると、そのフォームにはデフォルト・セル属性が入ります。デフォルト属性は削除できません。

セル属性データの転送

デフォルト属性の情報は、ユーザーがフローチャートのセルを TCS の行にリンクしたときに、自動的に Campaign に渡されます。カスタム・セル属性は、Campaign で、コンタクト・プロセスの IBM Unica Campaign 定義項目として自動的に使用可能になります。定義項目について詳しくは、「*IBM Unica Campaign*ユーザー・ガイド」を参照してください。

ターゲット・セル・スプレッドシートとテンプレート

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS を 1 つだけ含めることができます。

デフォルト・セル属性

デフォルト・セル属性は、すべてのターゲット・セル・スプレッドシートに表示されます。これらの属性は、「管理設定」の「共有属性」ページ上のセル属性のリストには表示されません。

表 1. デフォルト・セル属性

名前	TCS の公開に必要な値	説明
セル名	はい	テキスト項目
セル・コード	いいえ	テキスト項目
説明	いいえ	テキスト項目
制御セルかどうか	はい	「はい」と「いいえ」のドロップダウン・リスト
制御セル	いいえ	制御セルのドロップダウン・リスト
指定済みオファー	いいえ	1 つ以上のオファーまたはオファー・リストを選択するために使用できる選択コントロール
承認済みかどうか	いいえ	「はい」と「いいえ」のドロップダウン・リスト。この列は、対応するキャンペーン・プロジェクト・テンプレートで「承認が必要」がチェックされている場合にのみ表示されます。
フローチャート	いいえ	セルが使用されるフローチャートの名前を表示する、読み取り専用項目
前回実行日	いいえ	このセルを含むフローチャートが前回実行された日時を表示する、読み取り専用項目

表 1. デフォルト・セル属性 (続き)

名前	TCS の公開に必要な値	説明
実数	いいえ	このセルの前の実行カウント (セル内の一意のオーディエンス ID のカウント) を表示する、読み取り専用項目
実行タイプ	いいえ	このセルを含むフローチャートの前回の実行の実行タイプ (本番またはテストのフローチャート、プランチ、またはプロセス・ボックス) を示す、読み取り専用項目

デフォルト・セル属性では、以下のプロパティのみ編集できます。

- 表示名
- 説明
- ヘルプ・テキスト
- ソート可能
- ソート・タイプ
- 配置

オファー・テンプレートの設計

オプションのオファー統合が有効になったら、ユーザーにオファーの作成をガイドするためのオファー・テンプレートも Marketing Operations で作成します。オファー・テンプレートで作業するには、まずテンプレートを設計し、次にそれらを構築するために使用するカスタム・オファー属性とフォームを作成します。

オファー・テンプレートの作成準備が整ったら、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「テンプレート」を選択して、「オファー・テンプレート」セクションのオプションを使用します。

オファーの管理および使用について詳しくは、管理者およびユーザーを対象とした Campaign ガイドを参照してください。

オファー統合を有効にすると、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーに加えて、既存のオファー・テンプレートおよびオファー属性を Campaign からインポートできます。

属性の設計

ユーザーがプロジェクトに入力可能な情報の各アイテムに対応する属性が、テンプレート内のタブにあります。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、以下のような属性カテゴリーが含まれます。

- グリッドの外側のフォームに表示される、Marketing Operations でのみ使用される情報にフォーム属性を使用します。
- グリッド (TCS グリッドも含む) の内側のフォームに表示される、Marketing Operations でのみ使用される情報にグリッド属性を使用します。

- グリッドの外側のフォームに表示される、Campaign と共有される情報にキャンペーン属性を使用します。
- TCS グリッド内のフォームに表示される、Campaign と共有される情報にセル属性を使用します。
- オfferも統合するシステムの場合、オffer属性を使用して、Campaign と共有するオffer情報を収集します。オffer属性は、それらを使用するオfferが Campaign に公開されると、Campaign と同期されます。

共有属性を表示または定義するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。すべてのキャンペーン属性、セル属性、およびオffer属性を共有属性として作成します。フォーム属性とグリッド属性は、単一フォームにのみ関連している場合にはローカルとして作成でき、複数フォームで使用することを計画している場合は共有として作成できます。

注: 標準のデフォルト属性は編集不可であり、「共有属性」ページにはリストされません。例えば、デフォルト・セル属性はすべてのターゲット・セル・スプレッドシートに表示されますが、「共有属性」ページにはリストされません。

キャンペーン、セル、またはオfferのパフォーマンス・レポートに情報を含めるには、その情報が対応する属性によって収集されていなければなりません。情報は Campaign に (つまり、キャンペーン属性、セル属性、またはオffer属性によって) 渡されます。

キャンペーン属性

IBM Unica Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations にカスタム・キャンペーン属性を作成します。すべてのキャンペーン属性は共有され、Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを構成するフォームにこれらの属性を追加します。

カスタム・キャンペーン属性を含んだテンプレートからキャンペーン・プロジェクト用の連携キャンペーンを作成すると、対応する属性が Campaign に作成されます。連携キャンペーンを作成した後で、キャンペーン属性によって作成された項目に入力したデータを変更した場合、新しい情報を Campaign に送信するために、キャンペーンを更新する必要があります。キャンペーン属性の説明およびフォームの説明を使用して、キャンペーンの更新が必要な項目をユーザーに通知してください。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

セル属性

セル属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために IBM Unica Campaign にマップされる IBM Unica Marketing Operations 属性です。Marketing Operations には、すべての TCS に含まれるデフォルト・セル属性のセットがあります。

Marketing Operations でカスタム・セル属性を作成することもできます。ユーザーが、カスタム・セル属性を含んだテンプレートから、キャンペーン・プロジェクト用のリンクされたキャンペーンを作成すると、対応するセル属性が Campaign に自動的に作成されます。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

オファー属性

オファー統合が有効になると、Campaign の標準属性に対応する標準オファー属性のセットが Marketing Operations に提供されます。Marketing Operations でカスタム・オファー属性を作成することもできます。すべてのオファー属性は、共有属性です。

属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

カスタム・オファー属性

デフォルトでは、Marketing Operations で定義したすべてのカスタム・オファー属性がパラメーター化されます。ユーザーはそれらのパラメーター化された属性に値を定義できます。しかし、カスタム・オファー属性を特定のフォームに追加する際に、代替動作を選択することもできます。オファー属性に対する特別な動作の選択項目は、以下のとおりです。

- 静的。これは、ユーザーが表示できるが変更できない値が、属性に一度設定されることを意味します。
- 表示されていない静的。これは、値が一度設定されるが、項目と値はユーザーに対して非表示になることを意味します。表示されていない静的な値はレポートに含めることができます。

フォームでオファー属性に対する動作を定義するには、フォームに属性をインポートする際に、属性を選択してから「静的」、「非表示」、または「パラメーター化済み」属性を選択します。

これらの特別な動作の選択項目は、Campaign でどのようにオファーを使用できるかに対応しています。これらの選択項目について詳しくは、「IBM Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

標準のオファー属性:

次の表は、で提供されるオファー統合を可能にする Marketing Operations システムで使用可能な標準のオファー属性をリストしています。

表 2. 標準のオファー属性

属性表示名	属性内部名*	属性タイプ
平均レスポンス収益	AverageResponseRevenue	金額
チャンネル	Channel	単一選択
チャンネル・タイプ	ChannelType	単一選択
オファー当たりのコスト	CostPerOffer	金額

表 2. 標準のオファー属性 (続き)

属性表示名	属性内部名*	属性タイプ
クリエイティブ URL	CreativeURL	テキスト - 単一行
開始日	EffectiveDate	日付選択
終了日	ExpirationDate	日付選択
有効期限期間	ExpirationDuration	浮動
フルフィルメント・コスト	FulfillmentCost	金額
インタラクション・ポイント ID	UACInteractionPointID	浮動
インタラクション・ポイント	UACInteractionPointName	テキスト - 単一行
オファーの固定費	OfferFixedCost	金額

*オファー統合が有効な Marketing Operations システムでは、属性内部名はすべて小文字で格納されます。

クリエイティブ URL オファー属性について:

Marketing Operations と Campaign を統合したシステムにおいては、システム提供のクリエイティブ URL オファー属性には以下の特性があります。

- オファー統合を有効にすると、Marketing Operations は creativeurl という内部名を持つ既存の属性がないかチェックします。 creativeurl 属性が見つかる場合、オファー統合は失敗するので、既存の属性の値が上書きされることはありません。オファー統合を進めるためには、既存の属性の属性内部名を変更しなければなりません。
- Marketing Operations でフォーム定義の作業を行う場合、クリエイティブ URL 属性をフォームにインポートしたり追加したりできません。
- Campaign からクリエイティブ URL 属性があるフォームをインポートすると、Marketing Operations ではその属性は読み取り専用になります。属性値を Marketing Operations で編集することはできません。
- クリエイティブ URL 属性はスマート・オファー・リストでは使用できません。クリエイティブ URL 属性を使用するクエリーを作成しても、結果は返されません。

キャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

IBM Unica Marketing Operations と IBM Unica Campaign の両方に存在する属性タイプのみが、キャンペーン属性およびセル属性で使用できます。オファーも統合するシステムの場合、オファー属性にも同じ制約が適用されます。

表 3. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

属性タイプ	キャンペーン属性	セル属性	オファー属性
テキスト - 単一行	X	X	X
テキスト - 複数行	X	X	X
単一選択	X		X
単一選択 - データベース	X		X

表 3. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ (続き)

属性タイプ	キャンペーン属性	セル属性	オファー属性
複数選択 - データベース			
「はい」または「いいえ」	X	X	
日付選択	X	X	X
整数	X	X	
10 進数	X	X	X
金額	X	X	X
ユーザーが選択			
外部データ・ソース			
算出値	X	X	X
「URL」項目			
単一選択オブジェクト参照			
複数選択オブジェクト参照			
イメージ			

注: 「単一選択 - データベース」属性タイプの属性の場合、IBM Unica Marketing Operations は選択の参照値 (表示値ではなく) を IBM Unica Campaign に渡します。参照値および表示値は、参照テーブルを作成する際に決定します。

Marketing Operations には、スタンドアロンの IBM Unica Campaign のカスタム属性で使用可能な「変更可能なドロップダウン・リスト」に対応する属性タイプはありません。

共有属性を作成するには

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「共有属性」をクリックします。

画面では、共有属性のカテゴリごとに 1 つのセクションが表示されます。

4. 作成する属性の属性カテゴリの「属性の作成 (Create Attribute)」リンクをクリックします。

「新しい共有属性の作成」ウィンドウが表示されます。

5. 属性を定義します。
6. 「保存して終了」をクリックして、属性を作成して「共有属性」画面に戻るか、「保存して他を作成」をクリックして、属性を作成して新しい属性の属性画面を表示します。

同じカテゴリまたは異なるカテゴリの別の属性を作成できます。

7. 「共有属性」画面で、各新規属性の行で「有効にする」をクリックして、フォームで使えるようにします。

TCS を作成するには

TCS を作成する前に、そこに含めるすべてのカスタム・セル属性を作成する必要があります。セル属性は IBM Unica Campaign にマップされ、共有属性としてのみ作成できます。

1. 「設定」>「**Marketing Operations 設定**」を選択します。
2. 「その他のオプション」で、「**テンプレート構成**」をクリックします。
3. 「テンプレート・コンポーネント (Template Components)」で、「**フォーム**」をクリックします。
4. 「フォーム定義」画面で、「**新規フォーム作成**」をクリックします。
5. 「フォーム・プロパティ」タブに入力して、「**変更の保存**」をクリックします。「要素の追加 (Add an Element)」タブが表示されます。
6. 「**新しいグリッドの作成**」をクリックします。
7. 「**属性タイプ**」項目で、ドロップダウン・リストから「**編集可能なグリッド**」を選択します。
8. 「**TCS**」チェック・ボックスを選択します。
9. 残りのオプションを入力して、「**保存して終了**」をクリックします。

TCS のグリッド・コンポーネントが、「カスタム属性」リスト・ボックスの「フォーム属性」リストに表示されます。

10. TCS のグリッド・コンポーネントを選択し、それをフォーム上のグループ・ヘッダーにドラッグします。

デフォルト・セル属性がグリッドに表示されます。

11. 必要な属性を TCS に追加します。次のいずれかを行うことができます。
 - カスタム・セル属性をインポートして、それを TCS に追加し、IBM Unica Campaign に渡される追加の列を作成します。
 - グリッド属性を作成またはインポートして、それを TCS に追加し、IBM Unica Marketing Operations でのみ表示される追加の列を作成します。
12. 「保存して終了」をクリックして TCS を保存し、「フォーム定義」リスト・ページに戻ります。

関連概念:

55 ページの『オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・リストをセルに割り当てる』

35 ページの『TCS への入力』

IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする

ユーザーがコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations にインポートできるようにするには、コンタクト数とレスポンス・タイプを Marketing Operations メトリックにマップする必要があります。

注: Campaign は、1 つのオーディエンス・レベル

(UA_ContactHistory、UA_ResponseHistory、および UA_DtlContactHist システム・テ

ーブルにマップされるオーディエンス・レベル) についてのみ、データを Marketing Operations に渡します。このオーディエンス・レベルは、任意のデータ・タイプまたは名前の、任意のオーディエンス・キー項目を持つ、任意のオーディエンス・レベルにすることができます。オーディエンス・レベルについて詳しくは、Campaign の資料を参照してください。

レスポンス・タイプは、Campaign データベース内の UA_UsrResponseType システム・テーブルに保管されます。メトリックをレスポンス・タイプにマップするには、レスポンス・タイプの名前を知っておかなければなりません。

マッピングは、XML ファイルに保管されます。

IBM Unica Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップするには

1. Campaign で、トラッキングするレスポンス・タイプを含めるように、UA_UsrResponseType テーブルのレスポンス・タイプのリストを必要に応じて変更します。
2. コンタクト数およびレスポンス・タイプに対応するメトリックを含めるように、システムで使用する Marketing Operations メトリック・ファイルを編集します。
3. Marketing Operations メトリックをコンタクト数およびレスポンス・タイプと関連付けるマップ・ファイルを作成します。
4. 作成したマップ・ファイルを Marketing Operations に追加します。
5. キャンペーン・テンプレートを作成し、「メトリック・データ・マッピング」ドロップダウン・リストからマップ・ファイルを選択します。

コンタクトおよびレスポンスのデータが、そのテンプレートを使用して作成されたすべてのプロジェクトのメトリックにマップされます。

メトリック・データ・マッピング・ファイルについて

メトリック・データ・マッピング・ファイルは、コンテナー要素 `<metric-data-mapping>` および `</metric-data-mapping>` を使用する必要があります。

マッピング・ファイル内の次の行は、以下のようになります。

```
<datasource type="webservice">
  <service-url>CampaignServices</service-url>
</datasource>
```

実際のマッピングは、要素 `<metric-data-map>` および `</metric-data-map>` に含まれる必要があります。

メトリック

`<metric>` 要素を使用して、マッピング内のメトリックを定義します。 `<metric>` 要素に値はありませんが、子要素である `<data-map-column>` を含める必要があります。 `<metric>` 要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックの内部名

属性	説明
dimension-id	Campaign からの値を配置する列の番号。列には、左から右に向かって番号が付けられます。最初の列は、列 0 になります。

data-map-column

<data-map-column> 要素は、マッピングにおけるデータ・ソース（コンタクト数またはレスポンス・タイプのいずれか）を定義するために使用します。

<data-map-column> 要素は、コンタクト数またはこのレスポンス・タイプがマップされるメトリックを定義する、<metric> 要素内に存在する必要があります。

<data-map-column> 要素に値はありませんが、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックにマップされるデータ・ソース。コンタクト数の場合は、contactcount を使用します。レスポンス・タイプの場合は、responsecount_<ResponseTypeName> を使用します。
type	この値は、常に number でなければなりません。

データ・マッピングを追加するには

テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、データ・マッピング・ファイルの作成または編集を行います。データ・マッピング・ファイルを保持したら、以下の手順を使用してそのファイルを Marketing Operations に追加します。

1. 「設定」>「Marketing Operations設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」>「データ・マッピング」をクリックします。
3. 「データ・マッピングの追加」をクリックします。

「データ・マッピングのアップロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 名前を入力します。

この名前が、データ・マッピング・ファイルの表示名になります。

5. データ・マッピングを定義する XML ファイルを表示します。
6. 「続行」をクリックします。

「データ・マッピングの定義」ページ

「データ・マッピングの定義」ページを使用すると、Marketing Operations プロジェクトと Campaign 内のキャンペーンとの間でデータをマップすることができます。

「テンプレート構成」ページから「データ・マッピング」リンクを使用して、データ・マッピングを構成します。

「データ・マッピングの定義」ページには、以下の列があります。

列	説明
名前	データ・マッピング・ファイルの名前

列	説明
タイプ	「キャンペーン・メトリックのインポート (Campaign Metrics Import)」: Marketing Operations のプロジェクト・メトリックを Campaign のコンタクト数およびレスポンス数にマップします。 前のバージョンのマップ・ファイルがある場合は、「タイプ」列にこれら以外の値が表示されることがあります。
使用先	このデータ・マップを使用するテンプレートのリスト。

注: Marketing Operations 内でマップ・ファイルを作成することはできません。テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、必要なマップ・ファイルを作成し、編集します。

データ・マッピングを編集するには

データ・マッピング・ファイルを更新するには、最初に XML ファイルを編集し、次にそのファイルを Marketing Operations に再ロードして戻します。

1. データ・マッピング XML ファイルをテキスト・エディターで開き、変更を加えます。
2. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
3. 「テンプレート構成」 > 「データ・マッピング」をクリックします。
4. 更新しているファイルの名前をクリックします。

「データ・マッピングの更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 「ファイル」を選択して、XML ファイルを参照します。
6. 「続行」をクリックします。

既存のファイルの上書きを求めるプロンプトが出されます。

7. 次のようにクリックします。
 - 既存のファイルを新しいバージョンのファイルで上書きする場合は、「保存」をクリックします。
 - 前のバージョンのファイルを残す場合は、「キャンセル」をクリックします。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート

IBM Unica Marketing Operations が IBM Unica Campaign と統合されると、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートによって、キャンペーン・プロジェクトの作成がガイドされます。

テンプレートの「キャンペーン」タブでオプションに入力することにより、そのテンプレートがキャンペーン・プロジェクト・テンプレートであることを指定します。特に、「ターゲット・セル・スプレッドシート」の指定は必須です。Campaign のコンタクトおよびレスポンスのメトリックをインポートする場合は、メトリックのマップ・ファイルを指定する必要があります。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの作成

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成する前に、そのテンプレートで使用するカスタム・キャンペーン属性、TCS フォーム、およびメトリック・マップ・ファイルを作成する必要があります。

1. 「設定」>「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」で、「テンプレート構成」>「テンプレート」をクリックします。
3. 「プロジェクト・テンプレート」セクションで、「テンプレートの追加」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブに入力して、「変更の保存」をクリックします。

追加のタブが表示されます。

5. 「キャンペーン」タブをクリックして、「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート」チェック・ボックスを選択します。
6. 「キャンペーン」タブの残りの項目に入力して、「変更の保存」をクリックします。

TCS の承認を必要とするようにするには、「承認が必要」チェック・ボックスを選択します。 42 ページの『TCS の承認について』を参照してください。

7. 残りのタブに入力し、それぞれ保存します。これらのタブや、テンプレートの作成について詳しくは、「IBM Unica Marketing Operations 管理者ガイド」でテンプレートの作成および編集に関する情報をお読みください。

「テンプレート」ページのプロジェクト・テンプレートのリストに、作成したテンプレートが表示されます。

8. そのテンプレートの行で「有効」をクリックし、ユーザーがプロジェクトを作成するときにそのテンプレートを使用できるようにします。

プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ

統合が有効になっている場合に、このタブを使用して Marketing Operations から IBM Unica Campaign への通信を設定します。このタブには、以下の設定があります。

表 4. キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの項目

項目	説明
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	このテンプレートをキャンペーン・プロジェクト・テンプレートとし、その他の「キャンペーンの統合」項目を表示する場合に、このチェック・ボックスを選択します。
TCS フォーム	このテンプレートから作成されたプロジェクトに使用するターゲット・セル・スプレッドシートが含まれるフォームを選択します。ドロップダウン・リストには、TCS が含まれるすべての公開済みフォームが含まれています。
メトリック・データ・マッピング	IBM Unica Campaign キャンペーンから IBM Unica Marketing Operations プロジェクトにレポート作成の目的でメトリックを送信するためのデータ・マップを含んだ XML ファイル。

表 4. キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの項目 (続き)

項目	説明
TCS フォームの表示名	「TCS」タブ上の選択したフォームの表示名。
パーティション ID	このテンプレートを使用して作成されたキャンペーン・プロジェクトに対応するキャンペーンを作成する IBM Unica Campaign インスタンスのパーティションを識別します。 デフォルト値は partition1 です。Campaign が単一のパーティションにインストールされている場合は、この値を使用します。Campaign が複数のパーティションにインストールされている場合、キャンペーンの作成に使用するパーティションを指定することができます。 IBM Unica Marketing Operations を使用して、パーティションを指定できます。指定するパーティションに対してアクセス権限があることと、統合が有効になっていることを確認してください。 Campaign パーティションのセットアップについて詳しくは、「<i>IBM Unica Campaign</i> インストール・ガイド」を参照してください。
要求に TCS タブを表示 (Show TCS® tab in request)	プロジェクトを要求するためにテンプレートが使用された場合に TCS を表示するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスがクリアされている場合、TCS はキャンペーン・プロジェクトにのみ表示され、要求には表示されません。
承認が必要	テンプレートで作成されたすべてのターゲット・セルに承認が必要な場合、このチェック・ボックスを選択します。選択されていない場合、TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示されません。 注: バージョン 8.2 へのアップグレードの一環として、すべてのアップグレード済みキャンペーン・テンプレートで「承認が必要」がクリアされます。 詳しくは、42 ページの『TCS の承認について』を参照してください。

注: 一度このテンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、非キャンペーン・テンプレートをキャンペーン・テンプレートに変更することも、キャンペーン・テンプレートを非キャンペーン・テンプレートに変更することもできなくなります。「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート」オプションは使用不可になります。

また、一度このテンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、以下のオプションも使用不可になります。

- TCS フォーム
- TCS フォームの表示名
- パーティション ID
- 要求に TCS タブを表示 (Show TCS tab in Request)
- 承認が必要

これらのオプションの値は、このテンプレートを使用して作成されたすべてのプロジェクトを削除した後でのみ変更することができます。

「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パッケージのインストール

Marketing Operations and Campaign Integration Report Package には、Campaign システム・テーブルと Marketing Operations システム・テーブルの両方から情報を照会および表示する、いくつかの IBM Cognos® レポートが含まれています。

このレポート・パッケージは、Campaign レポート・パッケージに依存しています。これは、統合レポートの「キャンペーン」セグメントが、Campaign レポート・パッケージのレポート・スキーマに依存しているためです。

統合レポート・パッケージのインストール前提条件

「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パッケージをインストールする前に、以下の構成ステップを実行する必要があります。

- Campaign システム用にレポートをセットアップする必要があります。いずれかの Campaign インストール・ガイドの『レポートのインストール』の章を参照してください。
- Marketing Operations システム用にレポートをセットアップする必要があります。「Marketing Operations インストール・ガイド」の『レポートのインストール』の章を参照してください。
- 2 つの Unica アプリケーションの統合は、完全に構成済みでなければなりません。

さらに、統合レポート・パッケージのサンプル・レポートを正常に動作させるために、以下のことが必要です。

- Campaign システムに標準カスタム・キャンペーン属性がロードされている必要があります。
- Marketing Operations システムにサンプル・テンプレート (特に重要なのが、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートのサンプル) がロードされている必要があります。また、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートでは、対応するキャンペーン・プロジェクト・メトリック・ファイルのサンプルを使用する必要があります。
- Marketing Operations システムで、財務管理モジュールが有効になっている必要があります。

これらの前提条件が満たされたら、このセクションの手順に進んでください。

ステップ 1: IBM Cognos システムで Unica インストーラーを実行する

1. Cognos Content Manager を実行する IBM Cognos システムで、Marketing Operations and Campaign 統合レポート・パッケージ・インストーラーを、以前に他のレポート・パッケージ・インストーラーをインストールしているディレクトリと同じディレクトリにダウンロードします。
2. IBM Unica インストーラーを実行します。(これにより、レポート・パッケージのサブインストーラーが起動されます。)

3. 最初の「製品」ウィンドウで、レポート・パッケージ・オプションが選択されていることを確認します。
4. 「Marketing Platform データベース接続」ウィンドウで、Marketing Platform システム・テーブルに接続する方法についての情報が正しいことを検証します。
5. レポート・パッケージ・インストーラーに引き継がれ、そのインストール・オプションが表示されたら、「IBM Cognos package for IBM Unica [product]」オプションを選択します。このインストール・オプションによって、レポート・アーカイブとレポート・モデルが Cognos マシンにコピーされます。このアーカイブを、後ほど手動でインポートします。

ステップ 2: レポート・フォルダーを Cognos Connection にインポートする

IBM Unica アプリケーション・レポートは、レポート・パッケージ・インストーラーが Cognos マシンにコピーした圧縮 (.zip) ファイル内にあります。この手順のガイドラインに従って、レポートのアーカイブ・ファイルを Cognos Connection にインポートします。

1. Unica¥ReportsPackCampaignMarketingOperations¥Cognos<バージョン番号> ディレクトリーにナビゲートします。
2. レポート・アーカイブ .zip ファイル (IBM Unica Reports for Marketing Operations and Campaign.zip) を、Cognos 配置アーカイブが保存されているディレクトリーにコピーします。分散 IBM Cognos 環境では、この場所は Content Manager を実行するシステムになります。

デフォルト・ロケーションは、IBM Cognos インストール済み環境の下の配置ディレクトリーであり、そのディレクトリーは Cognos Content Manager と共にインストールされる Cognos Configuration ツールで指定されています。例:
cognos¥deployment

3. Unica¥ReportsPackCampaignMarketingOperations¥Cognos<バージョン番号>¥CampaignMarketingOperationsModel サブディレクトリーを見つけます。
4. サブディレクトリー全体を、Cognos Framework Manager を実行しているシステム上の、Framework Manager がアクセスできる任意の場所にコピーします。
5. Cognos Connection を開きます。
6. 「ようこそ」ページで、「Cognos Content の管理 (Administer Cognos Content)」をクリックします。

「ようこそ」ページがオフになっている場合、Cognos Connection ユーザー設定でオンに戻してください。

7. 「構成」タブをクリックします。
8. 「コンテンツ管理」を選択します。

9. ツールバーの「インポートの新規作成」ボタン  をクリックします。
10. 以下のガイドラインに従って、「インポートの新規作成ウィザード」をステップスルーしてください。
 - a. 前の手順でコピーしたレポート・アーカイブを選択します。

- b. 「共有」フォルダー・コンテンツ・リストで、パッケージ自体 (青いフォルダー) も含めてすべてのオプションを選択します。
- c. まだユーザーにパッケージおよびそのエントリーにアクセスさせない場合は、「インポート後に無効化」を選択します。レポートを IBM Unica アプリケーション・ユーザーに対して使用可能にする前にテストする場合は、このステップを実行してください。

ステップ 3: レポート内の内部リンクを有効にする

IBM Unica アプリケーション・レポートには標準リンクがあります。これらのリンクを正しく機能させるには、26 ページの『ステップ 5: IBM Cognos アプリケーションのファイアウォールを構成する』の説明に従って Cognos ファイアウォールを構成すること、および以下の手順で、IBM Unica アプリケーション・レポート用に Cognos データ・モデル (.cpf ファイル) 内にリダイレクト URL を構成することが必要です。

1. Cognos Framework Manager から、その Framework Manager のディレクトリー構造にコピーした <製品名>Model サブディレクトリーを参照し、.cpf ファイルを選択します。例: CampaignModel.cpf
2. 「パラメーター・マップ」>「環境」を選択します。
3. 「環境」を右クリックして、「定義を編集」を選択します。
4. 「リダイレクト URL」セクションで、「値」項目を選択します。サーバー名とポート番号を、IBM Marketing システムに適合するように編集し、それ以外の URL はそのまま残します。規則として、ホスト名にはドメイン名を組み込みます。

例えば、Campaign の場合は次のようになります。

```
http://serverX.ABCompany.com:7001/Campaign/  
redirectToSummary.do?external=true&
```

例えば、Marketing Operations の場合は次のようになります。

```
http://serverX.ABCompany.com:7001/plan/callback.jsp?
```

5. モデルを保存し、パッケージを公開します。
 - a. ナビゲーション・ツリーから、モデルの「パッケージ」ノードを展開します。
 - b. パッケージ・インスタンスを右クリックして、「パッケージを発行」を選択します。

ステップ 4: データ・ソース名を検証して公開する

Framework Manager から Cognos コンテンツ・ストアにモデルを公開する場合、そのモデルでレポートのデータ・ソースとして指定される名前は、Cognos Connection で作成したデータ・ソースの名前に一致していなければなりません。26 ページの『ステップ 6: IBM Unica アプリケーション・データベース用に IBM Cognos データ・ソースを作成する』で説明するようにデフォルトのデータ・ソース名を使用すると、データ・ソース名は一致します。デフォルトの名前を使用しない場合は、モデル内のデータ・ソースの名前を変更する必要があります。

1. Cognos Connection で、作成したデータ・ソースの名前を判別します。
2. Framework Manager で、「プロジェクトを開く」オプションを選択します。
3. Framework Manager ディレクトリー構造にコピーした <製品名>Model サブディレクトリーを参照し、.cpf ファイルを選択します。例: CampaignModel.cpf
4. 「データ・ソース」エントリーを展開し、データ・ソースの名前を調べます。それらが、Cognos Connection で命名したものに一致していることを確認します。
 - a. 一致する場合は、この手順で終了です。
 - b. 一致しない場合は、データ・ソース・インスタンスを選択して、「プロパティ」セクションで名前を編集します。変更を保存します。
5. パッケージを Cognos コンテンツ・ストアに公開します。

ステップ 5: IBM Cognos アプリケーションのファイアウォールを構成する

IBM Cognos ファイアウォールを構成するには、IBM Unica システムを有効なドメインまたはホストとして指定し、検証を無効にします。

1. Cognos Configuration で、「セキュリティ」>「IBM Cognos Application Firewall」を選択します。
2. 「CAF 検証を有効化」を「無効」に設定します。
3. 有効なドメイン・プロパティまたはホスト・プロパティで、Marketing Platform を実行しているシステムの完全修飾マシン・ホスト名（ドメインおよびポートを含める）を入力します。

重要: IBM Unica Marketing 環境を分散している場合、この作業を Cognos レポートをレンダリングする IBM Unica 製品がインストールされているすべてのマシン（例えば、ダッシュボード付きの Marketing Platform、Campaign、および Marketing Operations など）で実行する必要があります。

以下に例を示します。

serverXYZ.mycompany.com:7001

4. 構成を保存します。
5. IBM Cognos サービスを再起動します。

ステップ 6: IBM Unica アプリケーション・データベース用に IBM Cognos データ・ソースを作成する

IBM Cognos アプリケーションには、IBM Unica アプリケーション・データベースを識別する独自のデータ・ソース（つまり、レポートのデータのソース）が必要です。IBM Unica レポート・パッケージで提供される IBM Cognos データ・モデルは、以下のデータ・ソース名を使用するように構成されています。

表 5. Cognos データ・ソース

IBM Unica アプリケーション	Cognos データ・ソース名
Campaign	CampaignDS
eMessage	eMessageTrackDS

表 5. Cognos データ・ソース (続き)

IBM Unica アプリケーション	Cognos データ・ソース名
Interact	設計時間データベース用として InteractDTDS ランタイム・データベース用として InteractRTDS 学習データベース用として InteractLearningDS
Marketing Operations	MarketingOperationsDS
Leads	データマート・テーブル用として LeadsDS

IBM アプリケーション・データベース用に Cognos データ・ソースを作成するには、以下のガイドラインに従います。

- Cognos Connection の「管理」セクションを使用します。
- Cognos データ・ソース・テーブルに表示されているデフォルトのデータ・ソース名を使用します。そうすることで、データ・モデルが変更されることを防止できます。
- 選択するデータベース・タイプは、IBM アプリケーション・データベースのタイプと一致していなければなりません。Cognos の資料やヘルプ・トピックを参考に、データベース固有の項目にどのように入力するかを判断してください。
- Cognos コンテンツ・ストアではなく、IBM Unica アプリケーション・データベースを指定していることを確認してください。
- 「サインオン」セクションを構成する際に、「パスワード」オプションと「すべてのユーザー' グループで使用できるサインオンを作成」オプションを選択します。
- 「サインオン」セクションで、IBM Unica アプリケーション・データベース・ユーザーのユーザー資格情報を指定します。
- Cognos データ・ソース・テーブルを調べ、構成しているレポートのデータ・モデルが必要とするすべてのデータ・ソースが作成されていることを確認します。例えば、「対話」のレポート・データは 3 つのデータベースに配置されているので、それぞれに別個の Cognos データ・ソースを作成する必要があります。
- Campaign システムに複数のパーティションがある場合、それぞれのパーティションに別個のデータ・ソースを作成します。例えば、Campaign が複数のパーティションに構成されている場合、各パーティションに別個の Campaign データ・ソースを作成してください。
- 「接続のテスト」機能を使用して、各データ・ソースが正しく構成されていることを検証します。

Cognos データ・ソースの構成について疑問の点がある場合は、「IBM Cognos 管理およびセキュリティ・ガイド」の『第 6 章: データ・ソースと接続』および Cognos のオンライン・ヘルプを参照してください。

第 3 章 統合環境でのキャンペーンの作成

Marketing Operations と Campaign が統合された場合のキャンペーン作成のワークフローは、以下のタスクで構成されています。

多くの組織で、マーケティング・キャンペーンの作成に必要とされるタスクは、複数のユーザーによって共有されます。

1. 適切なテンプレートを使用して、キャンペーン・プロジェクトを作成します。

権限に応じて、プロジェクトを直接作成できる場合と、プロジェクトを要求し、その要求が受け入れられるまで待機する場合があります。

2. プロジェクト・タブで、欠落している情報があれば入力します。
3. プロジェクトに、リンクされているキャンペーンを作成します。

このステップの実行後、「実装/計画」ボタン () が表示されて、キャンペーン・プロジェクトと、そのプロジェクトの連携キャンペーンの相互間でナビゲートできるようになります。

4. TCS に入力して、キャンペーンのコントロール・セルとターゲット・セル、およびターゲット・セルに割り当てられたオファーを定義します。
5. TCS を Campaign に公開します。
6. キャンペーンのフローチャートを作成し、そのフローチャートで作成されたセルを、TCS で定義された適切なターゲット・セルおよびコントロール・セルにリンクします。
7. (オプション: TCS の承認が必要な場合。)フローチャートのテスト実行を行い、セル数を生成します。
8. (オプション: TCS の承認が必要な場合。)確認のため、TCS 内からセル・ステータスを更新します。
9. (オプション: TCS の承認が必要な場合。)セルのすべての情報 (例えば数など) が適切であれば、TCS でセル (行) を承認します。
10. (オプション: TCS の承認が必要な場合。)フローチャートによって使用されているすべてのセルが承認されるまで、TCS の公開とセル・ステータスの更新のプロセスを繰り返します。
11. フローチャートで実行する、必要なすべての TCS 行の準備が整ったら、最後に TCS を公開します。
12. キャンペーンの運用フローチャート実行を開始します。

キャンペーン・プロジェクトについて

IBM Unica Marketing Operations システムが IBM Unica Campaign と統合されている場合、キャンペーン・プロジェクトを作成できます。

キャンペーン・プロジェクトは、マーケティング・キャンペーンの作成と Campaign によるそのキャンペーンの実行に関する情報を収集します。

キャンペーン・プロジェクトには、プロジェクト (サブプロジェクトも含む) で使用できるあらゆる機能を含めることができます。さらにキャンペーン・プロジェクトには、ターゲット・セル・スプレッドシートを含む「TCS」タブや、「サマリー」タブの追加の「キャンペーン・サマリー」セクションを含めることもできます。

キャンペーン・プロジェクトでは、プロジェクトのキャンペーン、オファー、コンタクト履歴、およびレスポンス履歴のデータを Campaign と同期します。

プロジェクト・コードおよびキャンペーン・コードについて

キャンペーン・プロジェクトを作成する際には、プロジェクトの名前とコードを指定する必要があります。「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンをクリックして IBM Unica Campaign でキャンペーンを作成すると、キャンペーンの名前およびコードとして、同じ名前およびコードが使用されます。

コードは、IBM Unica Marketing Operations および IBM Unica Campaign において一意でなければなりません。システムは、プロジェクトを作成する、またはプロジェクトを保存する (コードを変更した場合) 前に、コードの一意性を検査します。

プロジェクトを作成するには

プロジェクトを作成するときには、以下のことに注意してください。

- プロジェクトを作成するには、適切なセキュリティ権限を保持している必要があります。
- プロジェクトの作成者は、そのプロジェクトの所有者になります。
- プロジェクトに他のチーム・メンバー (そのうちの一部は、プロジェクト所有者を兼任できます) を追加できます。

以下の手順を実行して、プロジェクト・テンプレートを元に 1 つのプロジェクトを作成します。プロジェクト・テンプレートは、管理者によってセットアップされ、保守されます。プロジェクトをコピーする、プロジェクトのクローンを作成する (99 個まで)、またはプロジェクト要求に応答することにより、プロジェクトを作成することもできます。

1. 「操作」>「プロジェクト」を選択します。

2. 「プロジェクトの追加」アイコン () をクリックします。「プロジェクトの追加」ダイアログが開きます。
3. プロジェクトのテンプレートを選択します。

IBM Unica Marketing Operations 管理者は、組織のテンプレートをセットアップします。IBM Unica Marketing Operations および IBM Unica Campaign の統合のいずれかの機能にアクセスするには、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートとして構成されたテンプレートを選択する必要があります。

4. 「続行」をクリックします。
5. 「プロジェクトの追加」ウィザードに入力します。必須項目およびオプション項目に値を指定してください。「進む」をクリックして、ウィザードのすべてのページにアクセスします。

6. プロジェクトを保存すると、すべての必須項目に値が入力されているかどうかシステムによって検証されます。また、テンプレートからのデフォルト値が使用可能であれば、それらの値がオプション項目に入力されます。プロジェクトを保存するには、以下のいずれかのオプションを使用します。
 - 「完了」をクリックします。新しいプロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。
 - 「保存して複製」をクリックします。システムは、最初のプロジェクトを保存し、同じ情報を使用して別のプロジェクトを作成します。複製プロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。複製用として提供されたデフォルト名およびその他の項目を必要に応じて編集し、そのプロジェクトを同様に保存します。
 - 任意のページで「保存してリストに戻る」をクリックします。「すべてのプロジェクトおよび要求」ページが表示されます。

新たに作成したプロジェクトのステータスは、「開始前」になります。このプロジェクトを使用して情報を収集および共有するには、そのステータスを変更します。『プロジェクトを開始するには』を参照してください。

プロジェクトのタブは、使用するテンプレートによって異なります。標準的なプロジェクトには、プロジェクトの「サマリー」情報、「スタッフ」、「戦略」、「ワークフロー」(タスクおよび成果物のスケジュールを含む)、費用やリソースの「追跡」、およびプロジェクトに関連する「添付ファイル」などのタブがあります。IBM Unica Campaign が Marketing Operations と統合されると、キャンペーン・プロジェクトには「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブも組み込まれます。

プロジェクトを開始するには

自分が所有者であるプロジェクトは、どれでも開始することができます。

- 自分の作成したプロジェクト。
 - プロジェクト要求を受け入れたときに作成したプロジェクト。
 - 自分が所有者に含まれるプロジェクト。
1. 「操作」>「プロジェクト」を選択するか、既にプロジェクトで作業している場合は「アクション」アイコン () をクリックして、「すべてのプロジェクトおよび要求」を選択します。「すべてのプロジェクトおよび要求」ページが開きます。
 2. チェック・ボックスを使用して、自分の所有する「開始前」ステータスのプロジェクトを 1 つ以上選択します。
 3. 「ステータス」アイコン () をクリックして、「プロジェクトの開始」を選択します。選択した各プロジェクトで考えられるステータス変更に関する詳細を示したダイアログ・ボックスが開きます。
 4. プロジェクトを個々に開始することもできます。プロジェクトの名前をクリックして「サマリー」タブに移動し、「ステータス」アイコンをクリックします。

プロジェクトを開始すると、すべてのプロジェクト参加者は、それぞれに割り当てられたタスクで作業できます。

「キャンペーン・サマリー」セクション

プロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションでは、このプロジェクトのキャンペーンに関する基本情報を定義します。

項目	説明
キャンペーンの説明	キャンペーンの説明を入力します。
キャンペーン開始日	キャンペーンが開始される日付。 手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。項目に日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。 この項目が空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。
キャンペーン終了日	キャンペーンが終了する日付。 手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。項目に日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。 この項目が空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。
キャンペーン目標	キャンペーンの目標を入力します。
キャンペーン・イニシアチブ	キャンペーンが該当するイニシアチブを入力します。
キャンペーンのセキュリティ・ポリシー	Campaign に定義されたすべてのセキュリティ・ポリシーのドロップダウン・リストから、セキュリティ・ポリシーを選択します。 いずれのポリシーも選択できます (自分の役割がないポリシーも選択可能)。キャンペーンを間違ったポリシーに配置した場合、そのキャンペーンが意図したエンド・ユーザーに対して表示されなくなる可能性があります。 セキュリティ・ポリシーが指定されていない場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。

要求を作成するには

プロジェクトを自身で作成するための権限を保持していない場合は、プロジェクト要求を作成することができます。要求を作成したら、それを送信する必要があります。

要求を作成する際に、ユーザーの入力するウィザード内のページは、作成するプロジェクトのタイプに応じて異なります。標準的な要求には、以下のようなセクションがあります。

- 要求に関するサマリー情報。
- 追跡情報。
- 要求の一部である添付ファイル。

1. 「操作」>「プロジェクト」を選択します。

2. 「要求の追加」アイコン () をクリックします。「要求の追加」ダイアログが開きます。
3. 要求に応じたテンプレートを選択します。

管理者が、組織のニーズを満たすプロジェクトのタイプに対応したプロジェクト・テンプレートをセットアップします。IBM Unica Marketing Operations および IBM Unica Campaign のいずれかの統合機能を使用するプロジェクトを要求するには、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートとして構成されたテンプレートを選択する必要があります。

4. 「続行」をクリックします。
5. 「要求の追加」ウィザードに入力します。必須項目およびオプション項目に値を指定します。各要求で、要求の確認と再ドラフト、または承認を行う受信者を指定します。ただし、テンプレートによっては、受信者を追加したり、各受信者の役割、要求を受信し承認する必要がある順序を定義するシーケンス番号、受信する長さ (期間)、またはそれらの承認が必要であるかどうかに関して指定された値を変更したりすることができる場合とできない場合があります。
6. 「進む」をクリックして、ウィザードのすべてのページにアクセスします。
7. 「完了」をクリックします。
8. 要求を保存すると、すべての必須項目に値が入力されているかどうかシステムによって検証されます。また、テンプレートからのデフォルト値が使用可能であれば、それらの値がオプション項目に入力されます。要求を保存するには、以下のいずれかのオプションを使用してください。
 - ・ 「完了」をクリックします。新しい要求の「サマリー」タブが表示されます。
 - ・ 「保存して複製」をクリックします。システムは、最初の要求を保存し、同じ情報を使用して別の要求を作成します。複製要求の「サマリー」タブが表示されます。複製用として提供されたデフォルト名およびその他の項目を必要に応じて編集し、その要求を同様に保存します。
 - ・ 任意のページで「保存してリストに戻る」をクリックします。「すべてのプロジェクトおよび要求」ページが表示されます。
9. 要求を最初のレビュー担当者へ送信します。

- ・ 1 つの要求を作成した場合、「ステータス」アイコン () をクリックして、「要求の送信」を選択します。
- ・ 複数の要求を作成した場合、『プロジェクトおよび要求のステータスを変更するには』の説明に従ってそれらの要求を送信します。

最後の必須受信者が要求を承認すると、プロジェクトが IBM Unica Marketing Operations によって作成されます。

プロジェクトおよび要求のステータスを変更するには

1 つ以上の要求またはプロジェクトのステータスを変更できます。変更内容は、以下の前提条件を満たしている必要があります。そうでない場合は、潜在的な問題について説明する警告メッセージが表示されます。

- 新しいステータスが、既存のステータスからの有効な遷移であること。
- ステータスを変更する適切な権限を保持していること。プロジェクト要求を受け入れる、または拒否する場合は、適切な承認者であることが必要です。

管理者は IBM Unica Marketing Operations をセットアップして、プロセスのステータス変更時にそのプロセスの所有者およびメンバーにアラートを送信するようにすることができます。

1. 「プロジェクトと要求」リスト・ページで、変更する各アイテムの横にあるチェック・ボックスを選択します。

複数のページ上のアイテムを選択できますが、ステータスの変更は、新しいステータスを選択するときに表示していたページ上で選択されたアイテムにのみ適用されます。

2. 「ステータス」アイコン () をクリックして、新しいステータスを選択します。ダイアログ・ボックスが開き、そこにコメントを追加できます。
3. コメントを追加して「続行」をクリックし、ダイアログ・ボックスを閉じて新しいステータスを適用します。

特殊文字について

Campaign のオブジェクトの名前に関して、特定の要件がある場合があります。特殊文字のいくつかは、Campaign オブジェクト名としてサポートされていません。加えて、オブジェクトの中には特定の命名上の制約があるものもあります。

注: オブジェクト名をデータベースに渡す場合 (例えば、フローチャート名を含むユーザー変数を使用する場合)、特定のデータベースでサポートされている文字だけでオブジェクト名が構成されていることを確認する必要があります。そうしないと、データベース・エラーを受け取ります。

リンクされたキャンペーンの作成

プロジェクトのリンクされたキャンペーンを作成するには、事前にキャンペーンの開始日、キャンペーンの終了日、およびキャンペーンのセキュリティ・ポリシーをキャンペーン・プロジェクトに指定しておく必要があります。

「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンをクリックしたユーザーは、自動的に Campaign でのそのキャンペーンの所有者になります。キャンペーンの所有権は変更できません。所有権は、Campaign でセットアップされたセキュリティ構成に応じて、特定の権限を認可することができます。

リンクされたキャンペーンを作成するには、Campaign で「キャンペーンの作成」権限を保持している必要があります。

Marketing Operations プロジェクトにリンクされるすべてのキャンペーンは、ルート・フォルダーに作成されます。

連携キャンペーンを作成するには

1. 「操作」>「プロジェクト」を選択します。
2. キャンペーンを作成するプロジェクトをクリックします。

プロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。

3. 左のツールバーで「リンクされたキャンペーンの作成」アイコン () をクリックします。

Campaign でキャンペーンが作成され、すべての共有情報 (TCS 内の情報を除く) が自動的に Campaign に公開されます。

キャンペーンが作成されると、「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンが、

「キャンペーンの更新」アイコン () に切り替わります。「実装/計画

(Implementation/Planning)」ボタン () がプロジェクト・タブの右側に表示されます。このボタンをクリックするとキャンペーンにナビゲートし、もう一度クリックするとプロジェクトに戻ります。

連携キャンペーンの更新

キャンペーン・プロジェクトから連携キャンペーンを作成したら、Campaign にデータが渡される (TCS の外部にある) 項目の値を変更する都度、連携キャンペーンを更新する必要があります。デフォルトでは、これらの項目はプロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションにあります。テンプレート作成者が、データが同様に Campaign に渡される別のタブに別の項目を作成している場合があります。判別できない場合は、テンプレート作成者に相談してください。

連携キャンペーンを更新するには、Campaign で「キャンペーンの編集」の権限を保持している必要があります。

TCS のデータは、TCS を公開すると Campaign に送信されます。

連携キャンペーンを更新するには

1. 連携キャンペーンのキャンペーン・プロジェクトを開きます。

2. 「サマリー」タブで、「キャンペーンの更新」アイコン () をクリックします。

TCS への入力

キャンペーンのすべてのターゲット・セルおよびコントロール・セルを定義し、ターゲット・セル・スプレッドシートにオファーを割り当てます。TCS には、キャンペーン全体のすべてのセル定義が含まれていなければなりません。1 つのキャンペーン内の複数のフローチャートは TCS 内のセルにリンクできますが、各 TCS 行

がリンクできるのは 1 つのフローチャート・セルのみです。例えば、E メールを介して配信されるキャンペーンのウェーブ 1 に定義されたセルと、コール・センターを介して送信されるウェーブ 2 に定義された別のセルがあるとします。ウェーブ 1 とウェーブ 2 は別のフローチャートに実装でき、これらのセルは、両方のフローチャートでオーディエンス ID の同じグループを表す場合には、同じ属性値 (例えば、セル・コード) を共有できます。

各行の「セル名」列および「制御セルかどうか」列には値が必要で、値が指定されていない場合その行は保存されません。セル・コードを指定しなかった場合、TCS を公開するときに自動的に生成されます。コードを指定する場合は、Campaign で構成されるセル・コード形式の要件を満たすものでなければなりません。

allowDuplicateCellCodes 構成パラメーターが FALSE に設定されている場合、セル・コードはフローチャート内で一意でなければなりません。TCS 内の行のセル・コードを削除して、TCS を再公開すると、Campaign がその行のセル・コードを作成します。そのセルとフローチャートとの間の既存のリンクはすべて存続します。

TCS は編集可能なグリッドなので、他の編集可能なグリッドに入力する場合と同じようにデータを入力できます。TCS 行は、コピーして貼り付けることができます。

TCS に加えた追加や変更は、TCS で「公開」をクリックするまでは Campaign に表示されません。

フローチャート・セルにリンクされている行を削除して、TCS を再公開した場合、その TCS の行にリンクされているすべてのフローチャート・セルがリンク解除されますが、データは失われません。そのセルがコンタクト・プロセスに対する入力である場合 (「コール・リスト」、「メール・リスト」または「最適化」プロセス・ボックス)、そのフローチャート・セルを別の TCS 行にリンクするまでは、フローチャートを運用モードで実行できません。

関連タスク:

17 ページの『TCS を作成するには』

51 ページの『統合システムでのオファーの作成』

グリッド・データの編集について

編集モードのグリッドで作業すると、行の追加、行の削除、および既存のデータの編集を行うことができます。適切な権限を保持していれば、1 つの編集セッションでこれらすべてのタスクを実行できます。

権限

グリッドで作業するには、次の権限を保持している必要があります。サポートが必要な場合は管理者に問い合わせてください。

- 行を追加するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、「グリッドの編集」、および「グリッド行の追加」権限を保持していなければなりません。
- 行を編集するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表」、「タブの編集」、「グリッドの編集」権限を保持していなければなりません。

- ・ 行をコピーおよび貼り付けするには、そのグリッドのタブに対する、「**タブの表示**」、「**タブの編集**」、および「**グリッドの編集**」権限を保持していなければなりません。
- ・ 行を削除するには、そのグリッドのタブに対する、「**タブの表示**」、「**タブの編集**」、「**グリッド行の編集**」、および「**グリッド行の削除**」権限を保持していなければなりません。

ロックされたデータ

システムは、あるユーザーが現在編集している行が別のユーザーによって編集されないようにします。キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシートでは、個々のグリッド行ではなく、グリッド全体がロックされ、編集できなくなります。

改訂履歴

Marketing Operations は、グリッドの監査ログを保守します。監査ログには、ユーザーの詳細と、その保存時刻が示されます。この情報は、「分析」タブで使用可能です。

新規グリッド行を追加するには

行を追加するには、そのグリッドのタブに対する、「**タブの表示**」、「**タブの編集**」、および「**グリッド行の追加権限**」を保持していなければなりません。

また、現行のグリッド・ビューにすべての必要な列が表示されていなければなりません。そうでない場合、新規行を保存しようとしたときにエラーを受け取ります。

1. 更新するグリッドにナビゲートします。
2. 「**編集**」をクリックします。
3. 行を選択します。

新規行の入る場所の上の行を選択します。

4. 「**行の追加**」をクリックします。

Marketing Operations は、選択した行の下に新規行を追加します。

注: 行を選択しないと、新規行は現行ページの終わりに追加されます。

5. 新規行の空の項目をクリックして、値を入力するか選択します。
6. すべてのデータを追加したら、「**保存**」をクリックします。

以下の点に注意してください。

- ・ 行を追加した後で、作業を保存せずにページを移動しようとする、Marketing Operations から警告が出されます。
- ・ 新しく追加された行のすべてのセルは、フォームの定義時の指定に応じて、ブランクか、デフォルト・データが入力された状態のいずれかになります。
- ・ 行を追加する前に複数行を選択すると、新規行は選択したブロックの後に追加されます。
- ・ 保存前に複数行を追加した場合、すべての新規行が検証にパスする必要があります。そうでない場合、新規行は保存されません。

- データの追加中に必要な列を非表示にすると、保存を試みた際にエラーを受け取ります。必要なすべての列を表示してから、データの追加を再試行してください。
- 新しいデータを保存するときには、新しく追加された行の配置が変わる可能性がある点に注意してください。行の順序は、グリッドのソート列に依存します。

グリッド行を編集するには

行を編集するには、そのグリッドのタブに対する、「**タブの表示**」、「**タブの編集**」、および「**グリッド行の編集**」権限を保持していなければなりません。

1. 更新するグリッドにナビゲートします。
2. 「**編集**」をクリックして表示モードから編集モードに切り替えます。
3. 編集するデータが含まれるページにナビゲートして、値を変更する項目内をダブルクリックします。

注: 現在別のユーザーがその行を使用している場合、システムからその行を編集できないことを通知するメッセージが表示されます。この場合は、別の行を編集できます。

選択した項目の特定のデータ・タイプに応じたエディターが表示されます。例えば、日付項目を選択した場合、日付ピッカーが表示されます。

4. すべての変更が完了したら、「**保存**」をクリックして作業内容を保存し、表示モードに戻ります。

グリッド行を削除するには

行を削除するには、そのグリッドのタブに対する、「**タブの表示**」、「**タブの編集**」、および「**グリッド行の削除**」権限を保持していなければなりません。

編集セッションの際に、グリッド・データの 1 つ以上の行を削除することができます。行を完全に削除する前に、システムから選択内容を確認するプロンプトが出されます。

1. 削除するデータが収められているグリッドにナビゲートします。
2. 削除する行を選択して、「**削除**」アイコンをクリックします。

削除のマークが付けられた行を説明するメッセージが表示されます。

3. 削除するすべての行にマークが付けられるまで、ステップ 2 を繰り返します。
4. 「**保存**」をクリックして、削除のマークが付けられた行を削除します。

現在別のユーザーが選択した行を使用している場合、システムからその行を削除できないことを通知するメッセージが表示されます。使用されていないその他の選択行は削除されます。

TCS の公開

TCS のセル定義およびオファーの指定を Campaign で使用可能にするには、その TCS を公開する必要があります。それ以降、TCS のデータに更新を加えたときには、必ずその TCS を再度公開して、それらの変更内容が Campaign に表示されるようにします。TCS を公開するには、Campaign で「キャンペーンのターゲット・セルの管理」権限を保持していなければなりません。フローチャートでは、TCS が公開されるまではいずれのセルも TCS の行にリンクできません。

TCS を公開するには、その TCS の各行の「セル名」列および「制御セルかどうか」列に値が指定されている必要があります。

TCS を公開すると、Campaign のフローチャートでデータが使用可能になりますが、TCS 内のすべてのリンクされた行が承認されるまでは、特定のフローチャートの本番実行を開始できません。フローチャートのテスト実行はいつでも開始できます。

TCS のデータを変更した場合、その TCS を再度公開して Campaign で使用可能なデータを更新する必要があります。

TCS にまだ公開されていないデータが含まれている場合は、「公開」ボタンのラベルが赤色になっています。

関連タスク:

51 ページの『統合システムでのオファーの作成』

TCS を公開するには

TCS を公開するには、その各行の「セル名」列および「制御セルかどうか」列に値が指定されている必要があります。TCS に非公開のデータが含まれている場合は、「公開」ボタンのラベルが赤色になっています。

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「公開」をクリックします。

IBM Unica Campaign のキャンペーンにアクセスするには

「実装」ボタンは、プロジェクトの連携キャンペーンが存在する場合にのみ表示されます。

1. Marketing Operations で対応するキャンペーン・プロジェクトを開きます。

2. 「分析」タブの右側の「実装」ボタン () をクリックします。

TCS でセル・ステータスを更新

セル・ステータスを更新すると、TCS 内のセルの実行結果が、Campaign から Marketing Operations にインポートされます。セル・ステータスを更新したときに、Marketing Operations は最新の実行結果をインポートします。前回の実行の結果は、消失して修復不能になります。

1 つ以上のセルがフローチャートにリンクされている場合にのみ、セル・ステータスを更新できます。セル・ステータスを更新するには、Campaign で「キャンペーン・ターゲット・セルの管理」の権限を保持している必要があります。

セル・ステータスを更新すると、Marketing Operations は、以下の TCS の読み取り専用項目に、インポートした情報を配置します。

表 6. セル・ステータスの変更に応じて行われる更新

項目	説明
フローチャート	セルが使用されるフローチャートの名前。
前回実行日	このセルを含んだフローチャートが前回実行された日時。
実数	前回の実行時のセル内の一意のオーディエンス ID の数。
実行タイプ	このセルを含むフローチャートの前回の実行の実行タイプ (本番またはテストのフローチャート、ブランチ、またはプロセス・ボックス)。

TCS でセル・ステータス・データを更新するには

1. セル・カウント・データを更新するプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「セル・ステータスの取得」をクリックします。

フローチャートについて

フローチャートは、キャンペーン・ロジックを実行するために、データに対して一連のアクションを行うために使用します。キャンペーンは、1 つ以上のフローチャートで構成されています。フローチャートは、キャンペーンで必要とされるデータ操作、コンタクト・リストの作成、コンタクトまたはレスポンスのトラッキングを実行するために構成する、複数のプロセスから構成されます。これらのプロセスは、実質的にはユーザーがキャンペーンをどのように定義および実装するかを示しています。

注: フローチャートの作業を行うには、適切な権限が必要です。権限について詳しくは、「IBM Unica Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

フローチャートの作成

フローチャートをキャンペーンに追加するには、新規フローチャートを作成する方法と、既存のフローチャートをコピーする方法があります。

既存のフローチャートをコピーする場合、完成したフローチャートに必要な応じて変更を加えるため、時間の節約になります。

フローチャートの構築を容易にするために、事前に構成されたフローチャート・テンプレートを使用して、共通キャンペーン・ロジックやプロセス・ボックス・シーケンスを迅速に作成することができます。また、クエリー、テーブル・カタログ、トリガー、カスタム・マクロ、ユーザー変数、およびユーザー定義項目の定義などの、その他のオブジェクトを保存および再利用することもできます。

フローチャート名について

フローチャート名に使用できる特殊文字には、制限があります。詳しくは、「*Campaign ユーザー・ガイド*」の付録 A を参照してください。

新規フローチャートを作成するには

注: 対話式フローチャートを作成している場合は、IBM Unica Interact の資料を参照してください。

1. フローチャートを追加するキャンペーンまたはセッションで、「**フローチャートの追加**」アイコンをクリックします。

「フローチャートのプロパティ」ページが表示されます。

2. フローチャートの名前と説明を入力します。

注: 「**フローチャート・タイプ**」の下では、Interact のライセンス交付を受けたユーザーである場合を除いて、「**標準バッチ・フローチャート**」が唯一のオプションになります。Interact のライセンス交付を受けたバージョンをインストールしている場合、「**インタラクティブ・フローチャート**」も選択可能です。

3. 「**保存とフローチャートの編集**」をクリックします。

「フローチャート」ページにプロセス・パレットと空のフローチャート・ワークスペースが表示されます。

4. フローチャートにプロセスを追加します。

フローチャートは通常、処理対象の顧客またはその他の市場性のあるエンティティを定義する、1 つ以上の「**選択**」プロセスまたは「**オーディエンス**」プロセスから始まります。

重要: フローチャートでプロセスを追加したり構成したりする間には、必ず頻繁に「**保存**」をクリックしてください。

5. フローチャートの作成が終了したら、「**保存**」または「**保存して終了**」をクリックします。

プロセスについて

プロセスの作成について詳しくは、「*Campaign ユーザー・ガイド*」の『プロセスの処理』および『Campaign プロセス』の章を参照してください。

フローチャートのテスト

データを出力しない場合や、テーブルやファイルを更新しない場合には、フローチャートまたはブランチでテスト実行を実施できます。ただし、そうするとテスト実行および運用実行のいずれの場合も、完了時に実行がトリガーされる点にご注意ください。

プロセス、ブランチ、またはフローチャートのテスト時には、グローバル抑制が適用される点にご注意ください。

注: 最良の結果を得るには、エラーが発生するごとにトラブルシューティングができるように、フローチャートの構築中にプロセスおよびブランチでテスト実行を実施してください。また、実行またはテストする前に、各フローチャートを必ず保存するようにしてください。

フローチャートをテスト実行するには

1. フローチャート・ページの「編集」モードで、「実行」アイコンをクリックして「フローチャートのテスト実行」を選択します。

フローチャートがテスト・モードで実行されます。データはテーブルに書き込まれません。

正常に実行されると、各プロセスには青いチェック・マークが表示されます。エラーがある場合は、プロセスに赤い「X」が表示されます。

2. 「保存して終了」をクリックして、フローチャートを保存します。

「保存」をクリックしてフローチャートを保存し、編集するために開いたままにしておくこともできます。

フローチャートの実行が終了する前に「保存して終了」をクリックすると、フローチャートは引き続き実行し、その実行の終了後に保存されます。フローチャートがまだ実行している間に、自身または他のユーザーがそのフローチャートを再オープンした場合、そのフローチャートに加えられた変更は失われます。このため、フローチャートは実行前に必ず保存するようにしてください。

実行を一時停止するには、プロセス・ボックスを右クリックして「実行」>「一時停止」を選択します。実行を停止するには、プロセス・ボックスを右クリックして「実行」>「停止」を選択します。

3. Campaign ツールバーの「分析」タブをクリックし、「Campaign フローチャート・ステータス・サマリー」レポートを表示して、フローチャート実行中のエラーの有無を調べます。

TCS の承認について

「承認が必要」チェック・ボックスがオンになっているテンプレートを使用して作成されたプロジェクトの場合、フローチャートにリンクされている TCS 内のすべての行は、そのフローチャートが Campaign で運用モードで実行される前に、承認を受ける必要があります。このフローチャートを運用モードで実行しており、このフローチャートに関連付けられている TCS の 1 つ以上の行が承認されていないと、Campaign はエラーを生成します。

必要に応じて、TCS 上の各行を個別に承認することができます。行は、入力済みで内容が正しければ、TCS の他の行がまだ承認する準備が整っていない場合であってもすぐに承認できます。

「承認が必要」チェック・ボックスがオフになっているテンプレートを使用してプロジェクトが作成されている場合、TCS のトップダウン・セルは承認を受ける必要はありません。この場合、TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示されません。キャンペーンに TCS 承認が必要ない場合は、「承認が必要」チェック・ボックスをオフにしておくで時間が節約できます。

注: デフォルトでは、「承認が必要」はオフになっています。ただし Marketing Operations 8.5 にアップグレードすると、アップグレードされたキャンペーン・テンプレートではすべて「承認が必要」がオンになります。

インポートおよびエクスポート

「承認が必要」をオンにすると、「承認済みかどうか」列がエクスポートされます。

「承認が必要」をオフにすると、「承認済みかどうか」列はエクスポートされず、一致する CSV ファイルだけがインポートされます。

個別の TCS 行を承認するには

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「編集」アイコンをクリックします。
4. 承認する行の「承認済みかどうか」列をダブルクリックします。

「はい/いいえ」ドロップダウン・リストが表示されます。

5. 「はい」をクリックします。
6. TCS の編集が完了したら、「保存して終了」アイコンをクリックします。

TCS 内のすべての行を承認するには

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「すべて承認」をクリックします。

すべての TCS 行に対する承認を拒否するには

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「すべて拒否」をクリックします。

フローチャートの実行

フローチャート全体を実行することも、1 つのブランチを実行することも、フローチャート内の個々のプロセスを実行することも選択できます。最良の結果を得るため、発生するエラーをトラブルシューティングできるように、フローチャートの構築中にテスト実行を実施します。テストまたは実行する前には、必ず各フローチャートを保存してください。

重要: コンタクト・プロセスを含んだフローチャートの場合は、フローチャートの本番実行ごとに生成されるコンタクト履歴は 1 回のみであるという点にご注意ください。同じ ID のリストから複数のコンタクトを生成するには、ID のリストをスナップショットで出力し、フローチャートを実行するごとにそのリストから読み取ります。

注: 管理権限を持つユーザーは、「監視」ページにアクセスできます。このページには、実行中のすべてのフローチャートとそれらのステータスが表示されるほか、フローチャートの実行を中断する、再開する、または停止するコントロールがあります。

フローチャートを実行するには

1. フローチャートを表示している場合、「実行」アイコンをクリックして「実行」を選択すると、そのフローチャートを実行できます。

フローチャートを編集している場合、「実行」アイコンをクリックして「フローチャートを保存して実行」を選択します。

2. フローチャートが既に実行されている場合は、確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

実行から得られるデータは、該当するシステム・テーブルに保存されます。正常に実行されると、各プロセスには青いチェック・マークが表示されます。エラーがある場合は、プロセスに赤い「X」が表示されます。

3. 「保存して終了」をクリックして、フローチャートを保存します。

「保存」をクリックしてフローチャートを保存し、編集するために開いたままにしておくこともできます。

一度実行したフローチャートは、任意のレポートで実行の結果を表示するために、保存する必要があります。フローチャートを保存すると、繰り返された実行の結果がすぐに使用可能になります。

注: フローチャートの実行が終了する前に「保存して終了」をクリックすると、フローチャートは引き続き実行し、その実行の終了後に保存されます。

4. Campaign ツールバーで「分析」タブをクリックし、「Campaign フローチャート・ステータス・サマリー」レポートを表示して、フローチャート実行中のエラーの有無を調べます。

レスポンス履歴およびコンタクト履歴のインポート

キャンペーン・プロジェクトに「追跡」タブがある場合、テンプレート作成者が Campaign 内のコンタクトおよびレスポンスのメトリックと、Marketing Operations 内のメトリックをマップしています。メトリック・データをキャンペーン・プロジェクトにインポートできます。

メトリックをインポートするには、Campaign で「キャンペーンの分析」権限を持っている必要があります。

キャンペーンからメトリックをインポートするには

1. インポートするメトリックがあるキャンペーン・プロジェクトの「追跡」タブにナビゲートします。
2. 「値のインポート」をクリックします。

IBM Unica Campaign メトリックが「値のインポート」ページに表示されます。インポートされる情報は、テンプレート作成者が定義したメトリックによって決まります。IBM Unica Marketing Operations は、テーブルの下部に「外部ソースの最終更新日時」として示される、インポートを実行した前回の日付をキャプチャーして表示します。

3. 「保存して終了」をクリックして、「追跡」タブのメトリックを更新し、「値のインポート」ページを閉じます。

必要に応じて、インポートしたメトリックを手動で更新します。

統合レポート

「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パックがインストールされると、以下のレポートが使用可能になります。

表 7. 統合レポート・パックのレポート

レポート	説明
キャンペーン・セルの収支比較	各キャンペーンおよびキャンペーン内の各セルに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。
チャンネル別のキャンペーン・オファ어의収支比較	各キャンペーン、キャンペーン内の各チャンネル、およびチャンネル内の各オファーに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。
キャンペーン・オファ어의収支比較	各キャンペーンおよびキャンペーン内の各オファーに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。

第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレートの管理

オファー統合が有効に設定された場合、Marketing Operations でオファーを作成し、それらのオファーを Campaign で使用できるように公開します。この方法により、オファーを Campaign のセルに割り当てられる前にセットアップすることができます。オファーはテンプレートに基づきます。テンプレートも、Marketing Operations で作成されます。

オファー統合が有効に設定されると、以下のようになります。

- Campaign で以前に確立したオファーを、Marketing Operations にインポートできるようになります。
- ユーザーは、「Campaign」>「オファー」ではなく、「操作」>「オファー」を選択して、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーを作成および管理します。
- 「設定」>「Campaign 設定」>「テンプレートとカスタマイズ」オプションではなく、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」を使用して、オファー属性やオファー・テンプレートを作成および管理します。
- Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) フォームの出力セルに、オファーやオファー・リストを割り当てます。

オファー・ワークフロー機能

オファー統合が有効なシステムでは、Marketing Operations でオファーを処理するとき、以下の機能が使用可能です。

オファー承認

オファーを作成または編集するときに、Marketing Operations にはオファー承認を指定するためのチェック・ボックスが表示されます。承認済みのオファーのみを Campaign に公開することができます。

オファー状態

オファー (およびオファー・フォルダー) は、以下のような状態にすることができます。

- **ドラフト (Draft):** オファーを作成すると、新しく作成されたオファーの状態は「ドラフト (Draft)」になっています。
- **公開済み (Published):** 「公開済み (Published)」状態は、オファー・インスタンスを Campaign にプッシュします。オファーを最初に Marketing Operations に公開するときに、システムは Campaign にオファーを作成します。以降の公開では、Campaign のオファー・インスタンスが更新されます。
- **再ドラフト (Redraft):** 一度「公開済み (Published)」になったオファーは編集できません。公開済みのオファーを編集するため、ユーザーはオファーを再ドラフト

する (オファーを「ドラフト (Draft)」状態に変更する) ことができます。その後、オファーを編集し、変更したものを公開できるようになります。

- **回収する:**「公開済み (Published)」のオファーのみを「回収する」にすることができます。一度回収されたオファーは、それ以降使用できなくなり、編集することも他の状態に変更することもできなくなります。

自動的に生成されるオファー・コード

Marketing Operations では、各オファーに割り当てられるオファー・コードをデフォルトのコード生成プログラムで生成できます。ユーザーは、オファー・コード生成プログラムを変更できません。オファー作成のウィザード・モードでは、「**保存時に自動生成**」チェック・ボックスで自動的にオファー・コードが作成されます。このチェック・ボックスを選択すると、Campaign によりオファー・コードが生成されます。チェック・ボックスが選択されていないと、有効なオファー・コードの検証が行われます。

Marketing Operations でのオファー統合の有効化

オファー統合は、キャンペーン統合とは別個のオプションです。キャンペーン統合が有効になっているときに、オファー統合も有効にすることが可能です。

オファーの統合が有効になると、オファーおよびオファー・テンプレートを Campaign ではなく Marketing Operations で管理します。オファー統合は、Marketing Operations と Campaign の統合と同時に有効にすることも、後ほど Campaign を使用してオファーを管理した後で有効にすることもできます。

注: 前のバージョンからアップグレードしてオファー統合を有効にする場合、Campaign を使用して既存のオファーを編集する必要があります。Marketing Operations の既存のオファーを編集することはできませんが、これらのオファーをターゲット・セル・スプレッドシートで選択することはできます。

1. 7 ページの『統合された配置の構成設定』の説明に従って、Marketing Operations および適切な Campaign パーティションのそれぞれで、統合が有効になっていることを確認します。
2. 「設定」>「構成」ページの「Unica」の下で、「Platform」をクリックします。
3. 「設定の編集」をクリックして、「IBM Unica Marketing Operations - オファー統合」を True に設定します。この設定により、Marketing Operations のオファー・ライフサイクル管理タスクを実行する機能が有効になります。
4. Campaign インストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、オファー統合を有効にしたいパーティションごとに、以下のプロパティを設定します。

「Unica」>「Campaign」>「パーティション」>「パーティション[n]」>「server (サーバー)」と展開して、「internal (内部)」をクリックします。

5. 「IBM Unica Marketing Operations - オファー統合」を「はい」に設定して、このパーティションのオファー統合を有効にします。
6. 必要に応じて、その他のパーティションでステップ 4 を繰り返します。

7. Marketing Operations でオファー統合を有効にする前に Campaign を使用してオファーを管理していた場合は、パーティションごとにこれらのオファーのメタデータおよびデータを Marketing Operations にインポートします。

注: オファー統合を有効にした後に無効にすることは避けてください。

Campaign からオファーをインポート

オファー統合を有効にするときに、オファーのメタデータおよびデータを Campaign から Marketing Operations にインポートできます。

注: この手順は、オファー統合を有効にした直後、Marketing Operations を使用してオファー関連のアイテムを作成する前に実行してください。

通常、このインポート手順を実行するのは 1 回だけです。インポート手順が失敗した場合は、エラーを確認して解決してから、インポート・プロセスを再開してください。正常にインポートされたオファーとオファー・リストには、Campaign でフラグが立てられて、重複したインポートが起きないようにされます。統合後はすべてのオファーのメタデータおよびデータは Marketing Operations を使用して入力されるため、この手順を継続的に実行する必要はありません。

注: オファー・インポート手順が完了したことを確認してください。

オファーのメタデータおよびデータをインポートするには

オファーをインポートする前に、Campaign オファーまたはオファー・リストで所有者、変更者、ユーザーとして参照されているすべてのユーザーに Marketing Operations 権限があることを確認します。

Campaign から正常にオファーのデータおよびメタデータをインポートするためには、Marketing Operations と Campaign の両方に対する管理権限がなければなりません。

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「Campaign オファーのインポート」をクリックします。

「Campaign オファーのインポート」ページには、インポート可能なオファー・テンプレート、オファー・フォルダー、オファー、およびオファー・リストが列挙されています。

3. 「続行」をクリックします。インポート・プロセスが開始され、ステータスが表示されます。他のページにナビゲートしたり「キャンペーン・オファーのインポート」ページに戻ったりして、ステータスを確認し結果を調べることができます。

注: 管理者やこのインストール済み環境のユーザーが Marketing Operations を使用してオファーの作業を行う前に、オファー・インポート手順が正常に完了したことを確認してください。

4. 複数パーティションの Campaign 環境では、パーティションごとに上記の手順を繰り返します。他のパーティションのそれぞれに関連付けられたユーザー ID を使用して Marketing Operations にログインし、この手順を繰り返してください。

Campaign からのオファーのインポートの結果

インポート・プロセスにより、Campaign 内の既存のオファーのデータおよびメタデータが Marketing Operations に送られます。インポート・プロセスは、インポートした各アイテムのステータスを「公開済み」に設定します。

注: 撤回済みのオファーおよびオファー・リストはインポートされません。撤回済みのオファーのテンプレートは、ステータスを「無効」にしてインポートされません。

エラーまたは警告条件がないか確認するには、「Campaign オファーのインポート」ページにナビゲートし、「現在の/最後に完了したインポート・ジョブのエラー」をクリックします。

表 8. Campaign からインポートされるオファー関連アイテム

インポートされるアイテム (順序どおり)	起こりうるエラーおよび解決策
1. オファー・テンプレート	- 参照されている標準属性が存在しない: その属性を Marketing Operations に追加してから、再インポートしてください。 - 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。
2. オファー・フォルダー	- 同じ名前のオファー・フォルダーが存在する: Campaign と Marketing Operations のいずれかで既存のオファー・フォルダーの名前を変更してから、再インポートしてください。 - 親オファー・フォルダーが存在しない: 親オファー・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 - 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。

表 8. Campaign からインポートされるオファー関連アイテム (続き)

インポートされるアイテム (順序どおり)	起こりうるエラーおよび解決策
3. オファー	- 参照されているオファー・テンプレートが存在しない: オファー・テンプレートのエラーを解決してから、再インポートしてください。 - 参照されているオファー・フォルダーが存在しない: オファー・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 - 参照されているユーザーが存在しない: Marketing Operations に対する特権を持つユーザーを準備し、再インポートしてください。 - 同じオファー・コードのオファーが存在する (警告): このオファーはインポートされます。 Marketing Operations でコードを固有値に変更することにより対処します。 - 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。
4. オファー・リスト	1 つ以上のオファーがインポートできなかった: オファーごとにエラーを解決してから、再インポートしてください。 - 参照されているオファー・フォルダーが存在しない: オファー・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 - 参照されているユーザーが存在しない: Marketing Operations に対する特権を持つユーザーを準備し、再インポートしてください。 - 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。

統合システムでのオファーの作成

このトピックでは、オファー統合が有効になっている場合の、オファー作成のワークフローの概要を示します。

オファー統合が有効になると、Marketing Operations でオファー・テンプレートとオファーを作成し、そのオファーを Campaign で使用できるように公開します。以下のタスクは、すべて Marketing Operations で実行されます。

1. Campaign からインポートされたオファー属性およびオファー・テンプレート (あれば) を確認し、必要に応じて新しいオファー・テンプレートを設計します。
2. 新しいオファー属性を追加します。「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。
3. 必要な属性のフォームを作成します。「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「フォーム」を選択します。

4. 属性テンプレートにフォームを配置します。「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「テンプレート」を選択して、オファー・テンプレートを作成または編集します。「タブ」タブをクリックして、フォームを選択します。
5. オファー・テンプレートを Campaign に公開します。
6. オファー・テンプレートを基にオファーを作成します。「操作」>「オファー」を選択し、「オファーの追加」アイコンをクリックして、オファー・テンプレートを選択します。次に、ウィザードを使用してオファーを作成します。オファー・リストやオファー・フォルダーを作成することもできます。
7. オファーを承認して、Campaign に公開します。オファー・リストやオファー・フォルダーも Campaign に公開します。
8. キャンペーン・プロジェクト内のターゲット・セル・スプレッドシート・フォームの出力セルにオファーを追加します。

(Campaign が Marketing Operations と統合されると、キャンペーン・プロジェクトには「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブが組み込まれます。TCS 内の「指定済みオファー」列をダブルクリックして、オファーを検索または参照します。)

9. TCS を公開します。

これで、オファーが Campaign で使用可能になりました。属性情報は、ユーザーがフローチャートのセルを TCS の行にリンクしたときに、自動的に Campaign に渡されます。

関連概念:

53 ページの『オファー統合の有効化時にオファーを管理』

『オファー統合の有効化時にオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理』

55 ページの『オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・リストをセルに割り当てる』

35 ページの『TCS への入力』

39 ページの『TCS の公開』

オファー統合の有効化時にオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理

統合システムでは、「Marketing Operations 設定」(「キャンペーン設定」ではなく) からオファー・テンプレートにアクセスします。

統合環境でオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理するには、以下のガイドラインに従います。

- **オファー・テンプレートの作業:**「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「テンプレート」を選択します。「オファー・テンプレート」セクションのオプションを使用して、他のテンプレート操作を追加、有効化、編集、および実行します。

12 ページの『オファー・テンプレートの設計』を参照してください。

- **オファー属性の作業:**「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。「オファー属性」セクションのオプションを使用して、カスタム・オファー属性を作成したり編集したりします。

14 ページの『オファー属性』を参照してください。

これで、オファー・テンプレートで使用するためにオファー属性をフォームに追加できます。オファー属性をフォームに追加するときに、その動作を、「パラメータ化された」、「表示されていない」、「または表示されていない静的」として指定します。オファー・テンプレートのフォームには、ローカル・フォームまたは共有フォームとグリッド属性も含めることができますが、属性およびそれらによって収集されるデータは、Marketing Operations 内でのみ使用されます。オファー属性によって収集されたデータだけが、Campaign に公開されます。

オファー・テンプレートおよびオファー属性の設計について詳しくは、「*IBM Unica Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

関連タスク:

51 ページの『統合システムでのオファーの作成』

オファー統合の有効化時にオファーを管理

統合システムでは、「操作」>「オファー」（「Campaign」>「オファー」ではなく）を使用してオファーにアクセスし、未統合の Campaign システムの場合と同様の方法で操作を実行します。

統合環境でオファーを管理するためのガイドラインに従ってください。

- **オファーを作成する:**「操作」>「オファー」を選択し、「オファーの追加」アイコンをクリックして、オファー・テンプレートを選択してから、ウィザードを使用してオファーを作成します。オファーを作成したときに「承認済みかどうか」チェック・ボックスを選択してオファーを承認することも、後ほど承認することもできます。オファーは常に「ドラフト」、「公開済み」、「再ドラフト (Redraft)」または「回収する」の 4 つの状態のいずれかです。オファーを作成したときの状態は、「ドラフト (Draft)」です。このオファーを Campaign で使用可能にするには、承認した上で公開する必要があります。
- **オファーを承認する:**「操作」>「オファー」を選択して、リンクされたオファー名をクリックし、「承認済みかどうか」チェック・ボックスを選択します。オファーを Campaign に公開できます。
- **オファーを公開する:** 承認済みのオファーのみ公開することができます。「操作」>「オファー」を選択して、オファーの横にあるボックスにチェック・マークを付け、「ステータス」アイコンをクリックします。次に、「**選択したものを公開 (Publish Selected)**」を選択します。このアクションで、オファー・インスタンスが Campaign にプッシュされます。公開されたオファーは、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために選択することができます。
- **オファーを編集する:** 公開されたオファーは、状態を「ドラフト (Draft)」に変更するまで編集できません。「操作」>「オファー」を選択して、公開されたオファーの横にあるチェック・ボックスを選択し、「ステータス」アイコンをクリックします。次に、「**選択したものを再ドラフト (Re-draft Selected)**」を選択します。これで、オファーを編集し、変更したものを公開できるようになります。

- **オファーを回収する:** 公開されたオファーのみ回収することができます。回収されたオファーは、それ以降使用できなくなり、編集することも他の状態に変更することもできなくなります。オファーを回収するには、「操作」>「オファー」を選択して、公開されたオファーの横にあるチェック・ボックスを選択し、「ステータス」アイコンをクリックします。次に、「**選択したものを回収 (Retire Selected)**」を選択します。

Marketing Operations を使用して、オファーをオファー・フォルダーやオファー・リストに編成することもできます。

注: オファー・フォルダーを削除すると、そのフォルダーに含まれるすべてのサブフォルダー、オファー、およびオファー・リストも削除されます。

- **オファー・フォルダーを作成する:** 「操作」>「オファー」を選択して、「フォルダーの追加」アイコンをクリックします。サブフォルダーを追加する場合は、リンクされたフォルダー名をクリックして表示してから、「フォルダーの追加」アイコンをクリックします。フォルダーを追加したら、そのフォルダーにオファーやオファー・リストを追加できます。フォルダーを Campaign で使用可能にするには、公開する必要があります。
- **フォルダーにアイテムを移動する:** 「操作」>「オファー」を選択して、移動するオファー、オファー・リスト、またはフォルダーを見つけます。そのアイテムの横にあるチェック・ボックスを選択してから、「**選択したアイテムの移動**」アイコンをクリックします。
- **オファー・フォルダーを公開する:** 「操作」>「オファー」を選択して、フォルダーの横にあるボックスにチェック・マークを付け、「ステータス」アイコンをクリックします。次に、「**選択したものを公開 (Publish Selected)**」を選択します。このアクションで、オファー・フォルダーが Campaign にプッシュされます。ただし、この手順では、そのフォルダーに含まれている「ドラフト (Draft)」状態のオファーやサブフォルダーは公開されません。これらのアイテムは、個別に公開する必要があります。
- **オファー・リストを作成する:** 「操作」>「オファー」を選択して、「オファー・リストの追加」アイコンをクリックします。オファー・リストを Campaign で使用可能にするには、公開する必要があります。

注: クラスタ環境では、オファー・フォルダーに対する変更は単一のノードで行われます。オファー・フォルダーに対する変更がシステム再始動を必要とせず他のノードに自動的に複製されるようにキャッシングを構成することについて詳しくは、「*IBM Unica Marketing Operations* インストール・ガイド」を参照してください。

オファーについて詳しくは、「*IBM Unica Campaign ユーザー・ガイド*」を参照してください。

関連タスク:

51 ページの『統合システムでのオファーの作成』

オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・リストをセルに割り当てる

統合環境では、Marketing Operations を使用して、ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) の出力セルにオファーおよびオファー・リストを割り当てます。

TCS は、Marketing Operations ではキャンペーン・プロジェクトの一部として表示されます。TCS が編集モードのときに行の「指定済みオファー」列をダブルクリックすると、オファーを検索したり参照したりできます。TCS を公開すると、フローチャート内のコンタクト・プロセス・ボックスでオファーを選択したときに、それらのオファーが自動的にセルに割り当てられます。このようにして、TCS セルはフローチャート・セルにリンクされます。これは「トップダウン」管理と呼ばれます。TCS に対する追加や変更は、TCS で「公開」をクリックするまでは Campaign に表示されません。ボトムアップ・ターゲット・セルは、**MO_UC_BottomUpTargetCells** が「はい」に設定されている (「Unica」>「Campaign」>「パーティション」>「パーティション[n]」>「server (サーバー)」>「internal (内部)」) 場合に、使用可能になります。

関連タスク:

17 ページの『TCS を作成するには』

51 ページの『統合システムでのオファーの作成』

IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセッションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『www.ibm.com/legal/copytrade.shtml』をご覧ください。



Printed in Japan